

戦禍越え中国から日本へ！

「残留邦人」帰国者が港区民と交流

一九四五(昭和二十)年八月の第二次大戦終結後も、混乱の中で中国や樺太に残らざるを得なかった、いわゆる「中国残留邦人」に対する理解を深めてもらおうと、八月三十日、港区民センターで「多文化交流中国茶会」と題する交流会が催されました。中国や樺太からの帰国者を支援する一般社団法人・大阪中国帰国者センターの主催、港区人権啓発推進協議会と波除地区民生委員協議会の共催による、港区では初の試み。帰国者十一人(うち港区在住六人)と関係者、港区民ら合わせて約五十人が、中国茶体験や懇談などを通じて親睦を深めました。

言語・就労・就学・住宅などに困難、求められる理解と支援

◆「中国残留邦人」とは

一九四五(昭和二十)年当時、中国の東北地方(旧満州地区)には、開拓団など多くの日本人

人が居住していましたが、同年八月九日のソ連

軍の対日参戦により、戦闘や飢餓など多くの

人たちが犠牲になりました。混乱の中、肉親と

離別して孤児となり、中国の養父母に育てられ

たり、やむなく中国に残ることになった人々を

「中国残留邦人」と呼びます。

（たいてい）

また、樺太に居留していた日本人で、集団引き揚げ後も様々な事情により残留を余儀なくされた人々を「樺太残留邦人」と呼びます。

この「中国残留邦人」と「樺太残留邦人」を合わせて「中国残留邦人等」と呼んでいます。



→戦禍を越えて帰国した中国残留邦人と港区民が交流し、理解を深めた「多文化交流中国茶会」八月三十日午後、港区民センターで

国や自治体では一九七一年の日中国交正常化以降、永住帰国及び定着自立の支援を行なってきました。しかし、帰国者の高齢化に伴い、言語や生活における困難は増しているのが現状です。これを受け、二〇〇八年からは、現状に即した新たな生活支援策も実施されています。

◆住みやすい地域へ力合わせよう

今回の催しは、こうした現状の中、大阪中国帰国者センターと、多文化共生に関わる港区の人々の気持ちが一致して実現したもの。そんな事情を反映し、司会は、日本に住む外国人に日本語を教える「市岡日本語教室」「市岡国際教育協会運営」の講師 皇暢子さんが担当しました。まず大阪中国帰国者センター常務理事の高崎

健さんが主催者あいさつに立ちました。この中で、自らも帰国二世である高崎さんは「中国茶は色も味も色々だが、人生も色々。中国残留邦人にも色々な歴史背景や現実がある。今日はお茶を飲んで懇談しながら、それらへの理解を深め、疑問を解いて頂けたら嬉しい。こうした催しを通じて、帰国者や高齢者など誰もが住みやすい地域になるよう、互いの力を合わせていき

「主催者挨拶する大阪中国帰国者センター・高崎健常務理事」と、地域を代表して挨拶する港区人権啓発推進協議会・大西史朗会長



ましよう」と呼びかけました。

また港区役所協働まちづくり支援課の花立課長代理は「中国残留邦人についてはマスコミ報道などで知られ、港区にも八世帯十三人の一世をはじめ、二世三世を入れると、多くの帰国者が暮らしておられるが、身近に接する機会は少ない。その中で大変意義深い催しだ。港区でも多文化共生の取り組みを進めており、こうした催しを通じて中国残留邦人への理解が深まり、地域の方々との交流がさらに広がることを期待しています」と支援の姿勢を表明しました。

また港区人権啓発推進協議会の大西史朗会長は「港区からの六名をはじめ十一名の帰国者が

参加されている。今日は中国茶について学びながら、様々な困難を抱えておられる中国残留邦人の方々についての理解を深め、地域として何ができるか、考えをきっかけにしていきたいと思います」と呼びかけました。

◆ 中国茶について楽しく学ぶ

「このあと「中国茶についてなめ」と題する催しが行なわれ、市岡日本語教室で日本語を学んでいる中国人・王建珍(日本名 伴場さん、帰国者センターで日本語を教えている濱崎さんが、中国茶についてのクイズを出したり、中国茶の茶器・茶道具・茶葉を紹介したり、中国茶の淹れ方や飲み方を実演したりしました。

このうちクイズでは「一人あたりの茶(中国茶・緑茶・紅茶)の消費量世界一は中国です」→「X(正解はクウエート、中国は二十四位、日本は十七位)」や「中国で一番多く飲まれているお茶は緑茶です」→「〇(七割を占める)」などの意外な答えに、また茶器・茶道具の紹介では「すう」「いれる」「すてる」など一連の動作全てに道具があるという「飲み方では女性はお口を見せないよう湯呑を隠すようにして」との実演

「中国茶について楽しく学べた」「中国茶体験」と、中国茶を飲みながらの賑やかな懇談(下)



に、それぞれ驚きの声が上がっていました。

◆ 中国にはまだ五百人が残ると推測

このあと休憩をはさんで四卓のテーブルごとに、中国茶を飲みながらの自己紹介や懇談が賑やかに繰り広げられ、最後に全体での感想表明や質疑応答が行なわれました。

この中では「言葉の問題で一番苦労します。子育ての面で支援・協力して頂ければありがたいです」(松原市の二世)→「困ったことがあつたらぜひ役所へ相談に来て下さい」(花立課長代理)、「帰国者の数は増えているのでしょうか、減っているのでしょうか」(大西会長)→「この数年、中国からはゼロで、樺太やロシアからは

年二、三千人というペースでしたが、昨年急に増え、中国から六十八人、樺太からは六十八人が帰国しました。また、今も中国には約五百人の残留邦人がいると推測され、連絡が取れない人たちもいます」(高崎常務理事)などのやりとりが注目されました。

◆ 「あいっえお」から勉強した

さらに懇談の中では高崎常務理事が「自分の母は六歳で北海道の稚内から船で中国へ渡り、満洲の牡丹江で暮らした。十三歳の時にソ連の進攻があり、終戦を迎え、中国の友人の助けで一カ月くらい避難生活を送ったあと、牡丹江に戻ったら何もなかった。一九七五年から帰国の申請を続け、九三年、六十一歳でやっと日本へ戻れた。八十二歳の今も自転車に乗っている。

自分は一九五七年生まれで、三十七歳の時に母ら四十数人と一緒に帰国したが、そのとき日本語を話せるのは母だけだった。『あいっえお』から始めて単語を一つ一つ覚えていった。最初、日本政府は、終戦時に十三歳以上の者は『自分の意思で残った』とみなして支援の手を差し伸べなかったが、〇八年からは条件付きで生活支

援を受けられるようになった。これからも港区
なでなでつついづ催しを続けていけたら嬉しい」
と自らの体験や現状への思いを語りました。

◆ 本日の多前、今も分らない

最後に、帰国者を代表して長山秀子さんが閉
会あいさつに立ちました。この中で長山さんは、
娘さんを介して大要次のように語りました。「終
戦後、中国人の養父母に引き取られた。貧しい
中で育てられ、今も感謝している。一九八八
年に帰国できた。本日の多前は今も分らない。
日本には希望を持って帰ってきたが、言葉の壁
にぶつかかった。今は帰国者センターの交流クラ
スなどに通って、毎日充実している。今日は港
区の皆さんの協力で楽しく交流でき、本日に嬉
しい。港区にもたくさんの方が生活してお
られる。これからも協力・応援をお願いします」。

◆ 「なでなで」と港区の帰国者

その後、港区在住の帰国者に訊きました。そ
のうち二世の八十二歳男性は通訳を介して、「福
建省から二〇〇七年に帰国しました。最初は
色々困ったことがありましたが、今は生活・医
療・住宅・介護などでも支援を受けられ、満足し

「帰国者を代表して閉会の挨拶をする長山秀子
さん」と、司会を担当した皇暢子さん④



ています」と笑顔で答えてくれました。

また二世の四十代女性は上手な日本語を使っ
て「福建省から一九九〇年に帰国しました。父
は中国人で、畑仕事をしていたと聞いています。
母は日本人で、小さいころ上海にいたことがあ
り、十三歳で中国へ渡ったそうです。『戦争では
苦労した』『戦争は怖い』とよく話していました
が、六年前に八十三歳で亡くなりました。私は
日本へ来てからは下場の手伝いや飲食店の仕事
をしました。今は中国料理店を経営する夫との
間に子供が二人います。やはり言葉の問題では
苦労が絶えません。こつこつ催しがこれからも
続くことを願っています」と真剣な表情で話し
てくれました。

◆ 「これからも重ねて」と港区民

また波除地区民生委員協議会の一員として参
加した氏川貴史さん⑤(六二)波除在住は「この
ような催しに参加するのは初めてです。帰国
者の方々には色々な苦労があることが分かり、
心打れました。特に言葉の問題は深刻で、こ
うして隣どうしに座ついても通じないことで
よいにそのことを感じました。それだけにこ
ういつ機会をこれからも多く重ねることで、交
流と理解が広がり、深まることを期待していま
す」と話していました。

◆ 「大阪中国帰国者センター」とは

今回の催しを主催した大阪中国帰国者センタ
ーは一九八四昭和五十九年、中国残留邦人等
を支援するために設立されました。今年四月現
在、大阪市内には一八九世帯、一九四人の帰国
者が生活していますが、同センターではこれら
帰国者が抱える様々な問題に対応し、日本語教
育や生活指導、悩みの相談をはじめ、就学・就労・
住宅などで必要な支援を行なっています。

所在地は東淀川区柴島二一〇-一九、☎
六・六三二一・一九六七。

あ さ や け

薄茶の毛並みにビーン玉状の黒目。せわしげに動きながら、時おり干からびた餅に齧りついています。八月十日の夕方、妻の知らせで廊下の捕獲器にハタネズミが掛かっているのが分りました。「しばらく飼ったるか」「いややん気持ち悪い」といって、我が家からほど近い安治川へ。護岸壁の内側のコンクリ床の上で籠の口を開けてやると、細かな足の運びで東側(井太方面)へみえる遠くかっつきましました。「達者でな…」。口風一過の曇り空の下での小やかな別れでした。思ひに、鼠にしろ蠅や蚊にしろ、あくまで人から見ての「害獣害虫」であって彼ら自身は生きるとして、なかんずく種族保存に必死なだけ。それが人間生活の安全・衛生を脅かす故にこそ悪名を着せられるのです。そう考えると人間社会でも「国民の安全を脅かすから」との理由で大量虐殺や破壊が正当化されてきた歴史が浮かび上がってきます。間近くは一度の大戦に朝鮮・ベトナム・イラク戦争、そして今ま

たパレスチナで、イラクで、ウクライナで…▼
そこで問題。こつした争いをなくす方法は？
答えは簡単。互いに「競争」ではなく「共存」の気持ちを持つこと。先月も使いましたが、「白だ黒だ」と喧嘩はおよし。白といつ字も墨で書くてな具合にゆったり構えていれば争いなど起りよつがありません。え、それが出来んから苦労するて…。確かに…▼「こつてこつて」を先を逸らし(築五十数年の我が家ではスプレーや音波発信器などの近代兵器を駆使した対鼠戦争が日常化。その中で意外や旧式の罠が功を奏した訳ですが、これで一件落着とはいきません。そう、今度は別のが天井裏を走り回っているのです。果てしなき害獣との戦い…。はて民族間の紛争とどっちが早く解決しますいじやう…。

× × × × ×

七十人を超す犠牲者を出した広島土砂災害は「人災やで」との見方が始めています。その理由で注目されるのは「原爆後の都市政策の結果」といふもの。①廃墟となった市街地の平野部に広い道路や官庁や企業を集中させ②その後経済的に有利な「政令市」に指定されるため急速

な人口拡大を図り③そのため住宅企業と相携えて脆い土質の山際へ過密な宅地造成を進めたからといふ訳です。詰まるいふ「戦争さえなければ」といふものかも知れません▼「こつて左様に、戦争はその最中だけでなく終結後も長く影響を及ぼすもの。ルネサンス期の人文学者エラスムスが「戦争は獣のためにこそあれ人間のためにはない、実に凶悪なものです。…

しかるに法王様方は一切を無視して戦争を主な仕事にしていらつしやる。…戦争の為にあらば若々しい情熱を注ぎ込み、…法律・宗教・立人・人類全体をメチャクチャにしておしまいになります」(愚神礼讃)と皮肉った通りです(本文中「法王」を「資本家」に置き換えれば現代にあてはまります)▼加えて今回、①被害を把握できない警察②機動力を欠く自衛隊③個人宅の土砂を搬出しない市④支援者を組織できないセンター等々、公助の力不足も指摘されています。そんな中、近隣同士で泥かきをし、ボランティアが土砂撤去を担う姿が感動を呼びました。破壊は強者が、復興は弱者がーそんな構図が六十九年前のヒロシマと重なった夏でした。

叫びたいわー！

今月の提言者

おおの

大野 ひろ子 さん (南市岡)



負担は重く 利用は遠く

医療・介護の改悪と闘おう

「101五年問題」って存知ですか？ あと十年たつと団塊の世代がすべて七十五歳を超え、六十五歳以上が人口の三割となり、今の制度ではもたないという言われている問題です。

◆ 攻防の末、強行成立

これに対処するための「制度改革」と称して六月十八日、国会で「地域医療・介護推進法」が成立しました。野党の追及に田村厚生労働大臣が何回も答弁撤回と謝罪に追い込まれる事態になりながら採決を強行しました。文末に「介護保険制度の主な改悪内容」

◆ 利用者に痛み強制

法の目的のひとつは「介護保険の給付額の大幅な削減」です。これによって、利用者や家族に大きな負担増と切り捨てが襲いかかり、小さな事業所は倒産・閉鎖の危機に、介護労働者はますます苛酷な労働条件に追い込まれ、今でさえ人手不足の現場は崩壊です。

◆ 病院がなくなる

病状が悪化しても入院できない、回復しないのに早期退院、入院先を求めて患者と家族はへとへと一身近にこんな現実はありませんか。

国は、増大する医療費削減の柱のひとつに「ベッド数の削減」を据えています。今、全国にあるベッド数は九〇万床、十年後には三〇万〜四〇万床増やす必要があると試算されていますが、厚生労働は逆に三〇万床を減らす方針。先進

的で高度な急性期医療を担う立派な病院は手厚く育成し、貧困ビジネスまがいの、薬と点滴だけの「姥捨山」のような病院は許容する、残りの中小病院は淘汰する、という中身です。

◆ 生きるも死ぬも自己責任？

名目は「在宅医療、地域医療の推進」。聞くといいですが、国の狙いは「病院をつぶして入院させない」「施設に入れない」「自分でボランティアを探して家で何とかせう」「死ぬも生きるも自己責任」という世界ではないでしょうか。

◆ アメとムチの権限で

国の医療政策は、①診療報酬による誘導②行政の許認可権や指導権限③その他の施策—を通じて実現する仕組みになっていますが、今回、法律に都道府県の権限強化による「アメとムチ」が盛り込まれました。つまり①「地域医療構想」をつくり、構想に従わない医療機関に指示できる権限を都道府県に与える②「改革」に協力する医療機関には補助金（消費税が財源）を配る基金を都道府県に創設する—という内容です。

住民の実情や要求を把握し、反映させるのは身近な市町村。しかしでも公的病院を守れ—」

とあちこちで住民が闘ってきました。国は都道府県に権限と金をゆだねることで、こつた住民の要求をねじ伏せ、病院つぶし、ベッド削減を強行しようとしているのです。

◆「右盤」は命のための規制

六月に閣議決定された「新成長戦略」の二本のうちの一つが医療、つまり混合診療の拡大です（混合診療とは保険診療と保険のきかない治療を一緒に行なうこと）。TPPにも含まれています。「右盤規制」に「あける」と安倍首相は言いますが、「右盤」とは何ですか？

そもそも医療は利潤追求を目的とせず、生存権を守る公共性の高い事業であり、医療を受ける権利は平等（これが原則です）。だから国民皆保険制度、つまり、誰でもどこでも安く国の基準に適合した診療を受けられる体制が作られてきました。この命を守る規制を「右盤」と言って攻撃する狙いは、医療をグローバル企業の利潤追求のための手段にしたいからです。

◆医療ビジネスへの横行

混合診療が拡大すると、金を出せば高度先進医療や高い輸入薬もふつうの病院で受けられ

る、その中に国は責任をもたない、他方で健康保険は安価で劣悪な診療・薬しか対象としない—という事態が進行します。

保険医療を「金で買う医療」に変質させ、医療ビジネス、製薬・医療機器資本、保険会社などのグローバル企業のもつけのために医療市場を食い物にさせていく、その突破口が混合診療の拡大です。

◆橋下の特区は「メン」

こつた中で橋下氏ら維新グループは「大阪を医療特区に」と名乗りを上げ、「海外から大金持を医療ツアーに呼び込み、カシノで大枚をはたいてもらう—そんなことを構想しています。医療も介護も生活保護も切られた高齢者が次々と野垂れ死に、という現実が迫っている中で。

—以上みてきたように、医療・介護「改革」は白害あつて一利なし。皆が安心して医療・介護にかかれる社会をめざし、共に闘いましょう！

〈介護保険制度の主な改善内容〉

①要支援者（いま二六〇万人を切り捨て 給

付対象から外し、市町村に移行（来年四月から段階的に—やるやらないも、サービス内容も、

市町村が勝手に決められる。国・行政の狙いは半数をボフンティア（ただ働きで）まかなうこと。こんな都合のいい話つてあり？ 安心できる安定した介護を担保する制度と責任を国が放棄するのだ。介護が必要な人がさらに重度化するのは必至。ちなみにボフンティア活用はナチスの手口だった。

②自己負担を倍に 年収二八〇万円以上の利

用者の自己負担を二割から三割へ倍増（来年八月から。医療保険で負担が重くなるのは年収三八三万円以上。これと比べてもあまりに低い。「二八〇万円」の根拠を田村大臣は答えられなかった。預貯金のない人にとっては命に関わる大幅値上げだ。

③「終の棲家」に要介護3の壁 家で暮らせ

なくなつた人が死ぬまで暮らせるはずの特別養護老人ホーム。入居できるのは「要介護3以上」とした（来年四月から）。五十二万人が入居を希望し、待機中だが、要介護3以下をバツサリ切り捨てるのか。介護度だけで必要性ははかれない！

（港）同南方会支部 八六五八二一四八五八

叫びたい！

こにし まさとし

小西 正敏さん（六三歳、甲中）



「地活協」は必要か

町会があるのになぜ屋上屋を？

昨年四月に大阪市二十四区の各地域で発足した「地域活動協議会」（以下「地活協」）について、「本主にこんな組織が必要なのか？」と疑問に思っていました。その存在を全然知らない方もおられるようですが、地活協とは「地域の問題を地域自らが考え解決するため、自主的に組織された団体」とされ、これまで地域の各団体へ個

別に下ろされていた補助金を、この新しい組織がまとめて受け取り、地域活動の総合的な計画を立てた上で、事業（避難訓練など）「こに振り分ける」という運営に変わったのです。

◆ 地域協議会の上になぜ？

そこで皆さんにまず思い出して頂きたいのは、大阪市には一九七五年に発足した「地域振興会」という町丁目単位の自主的な地域団体があり、防災・福祉など様々な地域課題に取り組んできた、ということです。確かに「地域振興会」も「回覧板を回すだけ」など不活発な町会がいくつも見られますが、そうした問題は今後改善していけば良いのであって、そんな問題があるからといって同じ趣旨の組織を別に作るというのは、まさに「屋上屋を架す愚挙」ではないでしょうか。

◆ 本主に「自主的」な組織？

次に考えて頂きたいのは、その結成の経過です。最初に述べたように、大阪市ではこれまで団体ごとに補助金が交付されていましたが、橋下市長による「市政改革」でそれらがほとんどカットされ、一躍に危機感を持った各地域は、補助金の受け皿として市が提案してきた「地活

協」を結成せざるを得なかった、つまり補助金を受けるために区役所の指導を受け入れざるを得なかった、と私は見えています。こんな経過が果たして「自主的」と言えるでしょうか。

◆ 運営の在り方にも問題

加えて見て頂きたいのは、地活協の実際の運営の在り方です。現在、港区では「小学校下」に地活協が組織され、各団体（地域振興会・民生委員会など）の役員クラブが運営委員会を構成して年間計画に基づいた活動をしています。その中で、①補助金総額が減って活動が窮屈になった②事業「この予算・決算義務付けで実務が煩雑化し、役員負担が過重になった③運営費補助金が活動費補助金の四分の一以内に制限され、実際に活動を担う人たちに十分な手当てが出せなくなった④広報紙の内容や発行回数のがらつきに見られるように、諸活動で地域間の格差が広がった」などの声があがっています。このような問題を抱えた地活協がこのまま存続して果たして地域のプラスになるのでしょうか。

以上「いへ大雑把に問題点をあげましたが、読者の忌憚のない意見をお待ちしています。」

みなとサロンの

広島千砂災害について

（池島・勝部 泰臣 八十一歳）

ちうつだがテレビで広島千砂災害のことに触れ、あの辺に神社があつて大蛇伝説が残つてゐるか。大蛇とは即ち土石流のことだといふ核家族のせいで持ち家が欲しい人が増えて、山の麓まで宅地造成が進んだ結果、その神社も住宅に囲まれて昔の山の中の神社の威厳をなくしたかも。

昔から災害のあつた所だから危険箇所警戒区域に指定すべしだが、「不動産の値打ちが下がる」でそのまま。阪神淡路大震災或いは東日本大震災・津波と違つては言つても、自然災害に変わりはない。想定外のことがこの際には幾らでも起つていふ教訓が忘れられてゐる。

『はぐらの津波とんでん』（谷本雄治著、フーベル館）といふ小学生向けの本をちよつと港図書館で借つて読んでいた。ひらがなは

んどのこの本、老いの頭にもすつと入つた（当たり前だ）。

生存率九八割とかの釜石市立小・中学生の奇蹟。過去幾度か津波に襲われた古老たちが代々伝えた「とんでん」。自分勝手に高台に向かつて逃げる。日頃の訓練をそのまま実行しただけなのに、世界が注目した。中には「かあちゃんか心配」と途中で引き返そうとした子どもがいたとつた。引率の先生に「あんたが逃げて生きることが一番。お母さんも必ず逃げて来るわよ」と言われ、ほごなく指定の安全地で抱きかか姿が見られたとが。涙腺のゆるい老人は涙が出てしばらく止まらなんだわい。

国滅ぼすカジノ、絶対許せない！

（八幡屋・永砂義明 七十八歳）

安倍内閣は八月、「日本の成長戦略の目玉」として、閣議決定した「新成長戦略」に「カジノを中核とする統合型リゾート」について関係省庁で検討をすすめる」と明記。さらにカジノ合法化への課題を検討する省庁横断の「特命チーム」を内閣官房に発足させるなど、政府あげてカジ

ノ推進へ暴走しています。一方、大阪では橋下市長が「大阪都構想の試金石」として「カジノ誘致」を盛り込んでいます。しかし、考えて下さい。カジノは日本の刑法で禁じられている明白な「賭博場」であり、ギャンブル依存症や犯罪の温床になるだけです。何の事をも生み出さず、人間を駄目にし、大阪のまちを壊し、国を滅ぼすカジノ。こんなものを「経済活性化」の名のもとに許すことは絶対にできません。私たち市民はこの問題にもつと関心を持ち、地域の将来、子供たちの未来にもかかわる問題として、強い反対の声を上げていきましょう！

生活保護受給者への圧力に思う

（市國元町・七十年代 元公務員）

いつも家内の購読している冊子を読ませてもらっています。八月号では「市の生活保護行政に懸念の声」（二頁）が心に残りました。

一般市民には過剰なまでの個人情報保護が叫ばれる一方で、「不正受給対策」とはいえ、生活保護受給者に対して大阪市が異常なほどの個人情報探りの出しを行なっていることが分かり、

あぜん
嘩然（あぜん）しました。少なくとも数年前までは、このような庄迫的なやり方はなされなかったと記憶しています。記事の中でKさんが主張されているように、必要な調査や話し合いは、申請時や受給後の定期訪問などで適切に行なわれているからです。にもかかわらず、このような圧力が市からかけられるようになったのは、やはり国の法改正やマスコミのバッシング的報道があったからだと思われます。いつて受給者に不当な圧力をかけることで、これから保護を受けようとする人に申請を思いとまらせ、少しでも受給者を減らそうとしているように思えてなりません。

私の公務員としての経験から言って、「不正」はどの分野でも必ず一定割合ありますが、それはそれでちゃんと把握してそれなりに対処すればよいと思います。全ての受給者にこのような重圧をかけて無理に受給者を減らそうするのは明らかに行き過ぎです。受給者が減るとそのものは、国や地方の財政状況から見ても悪いことではありませんが、これだけ失業や非正規や倒産が増え、貧しさが広がっている中で、必

要な人まで保護を受けられなくなることは、行政として絶対に避けなければなりません。

最後に書かれているように、莫大な米国債を売却するとか、カジノ誘致などに費やす出費をやめるとがすれば、福祉に回すカネは充分に出



↑辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙

てくるはず。貴紙の的を射た取材と提言にはいつも家内と感心しています。

市民の税金投入に腹立たしく

（磯路・蔭地 照子）
（かすち てるこ）

「市民の税金投入すべきか オーク200 破たん処理に思いつ」との提言（前号十四頁）読んでいいもーじを読んで。責任もつやむやなまま、当然のように税金を使う市の姿勢を腹立たしく思いました。一方では「お金が足りない、足りない」と言いつて市民生活に関係する色々な事業は縮小したり廃止したりしながら、その一方で行政側が無駄を省くために何かしたと云うことは、あまり聞きませぬ。「改革」といふ名目の下で市民に不自由や不便を押し付けています。納税者である私たちがバカにした話です。税金の使われ方に関心を持たなければ、改めて思い知らされた記事でした。

卒寿超えて「体験」語る姿勢に感銘

（八幡屋・四十代女性）

杉原麻子様の「戦争体験」（前号三四頁）を読

んで。卒寿を超えてもなお次世代に自らの苦難の体験を語り伝えようという姿勢に、まず感銘を受けました。港新聞さんからの要請があったにしても、思い出しても辛い体験を語るというのはなかなかできないことです。最初に語っておられるように、今もなお繰り返し、満州からの引き揚げ風景を夢に見られるとのこと。新婚時代の楽しい生活がこれからどう暗転していくのが、しっかりと読ませて頂きます。子供たちにもプリントして読ませます。

厳しい提言へ、身ひきこまる

区内・四十年代社員

毎月ネットで読んでいます。八月号は「生活保護」「国保料」「非核・平和」「社会保障」「オー2000破綻処理」など難しい社会問題に対する厳しい提言がこれでもかとあり、勉強になると共に、身が引き締まりました。どれも一筋縄ではないかな問題ばかりで、中にはオー2000の破綻処理(十四頁など)、何が正解なのか分からぬ問題もありましたが、総じて共鳴・共感できました。特に高圧的文書の送付を受け

た生活保護受給者の声(一頁)は身につきました。「他にもいろいろあるよー」と叫ばすにいられたんです。後半の文化記事も、港区の歴史や戦争体験など、やはり硬質のテーマが多く、全体として「ミミミ」としてはかなり高め、硬めの内容だったように思います。正直疲れましたが、大変勉強にもなり、いつものことながら、質の高い情報提供に感謝しています。

興味深く読んだ「会社ものがたり」

磯路・七十年代女性

「みなと会社ものがたり」創刊一頁を興味深く読みました。港区に鯉節を扱ったこんな珍しい企業があることを初めて知ったことに加えて、そのインタビュ内容が面白かったからです。全国トップクラスの在庫量を誇っていること、初代社長が鯉節への熱情を持ち、丁稚奉公から大変な苦勞もされて礎を築かれたことなどが分かりました。地元の良い企業があっても、よほど大きな会社でない限り、中身までは分かりません。これからもこんな隠れた優良企業を紹介して下さいよう希望します。そうすれ

ば子どもたちも、自分たちが住む港区に、もっと愛着や誇りを持つことができないか思います。

西村捨三さんの苦労があった

磯路・五十年代女性

「港の礎 築いた先人に感謝」(創刊三〇頁)を読んで、こんな行事が毎年されていることを初めて知りました。指揮を執った西村捨三さんが船の沈没事故や市民のブライニングにも負けず大栈橋を完成させたことなど、興味深い歴史も分かり、一度大保山公園へ銅像を拝みに行ってみたいと思いました。

借金・相続・遺言

で悩んでいませんか?!



- ★1人で苦しまず、まずはお電話を
- ★他に債権回収などの相談も承ります(司法書士法第3条の範囲に限りまず)
- ★秘密厳守!
- ★土日でも対応OK!
- ★女性司法書士も在籍、お気軽に!



牧田・権藤合同法務事務所

港区南市岡1-6-3 ユタカビル2F
☎6586-6762
URL:makita-gondou.com

下水の役割など学ぶ

市岡下水処理場で「夏休み子供教室」



→「自由研究に役立てて」と開かれた「夏休み子供教室」Ⅱ八月二十三日、市岡下水処理場で（写真はクイズに答える子供たち）

「夏休みの自由研究に役立てて」と八月二十三日朝、市岡下水処理場（市岡）の新イベント「夏休み子供教室」が同所で開かれました。

●顕微鏡で微生物の観察も

小学四～六年生が対象でしたが、参加したのは三年生の岸本怜音さん（井天小）と上安季果さん（三光小）。職員から大阪市の下水や処理場について説明を受けたあと、処理場の「反応槽」に住まわせている微生物が水の汚れをバクバク食べてくれる様子を、顕微鏡やモニターで「百倍や四百倍に拡大して観察」。あ、おもしろい「動いてる」などで歓声を上げていました。

最後に「地球は何の星と呼ばれていますか？」（正解は「水の星」）、「四百年前に大阪で造られた下水は？」（正解は「背割下水」）など七問から成るクイズが出されましたが、二人は全問正解。「褒美」景品三品ろえのわ、シャボン玉、ジグソーパズルを受け取りました。

●「とても勉強になったと参加者

終了後、二人は「とても勉強になりました」「小さな虫が動いているのを顕微鏡で見るのが面白かったです」「景品はメチャうれしいです」

←職員の手引きで微生物をプレパラートに移し
①、顕微鏡とモニターで観察②（いずれも右が上安季果さん、左が岸本怜音さん）



と満足そうでした。付き添いの母親、岸本美穂さんと上安幸子さんは「夏休みも終わりに近づき、自由研究に何をしようかと迷っていたので、学校でもらったチラシを思い出し、保育所時代の友だちでついでに参加させました」「有意義な催しなので、来年以降もぜひ続けて欲しいです」。

宮本場長や講師役の職員は「喜んで頂き、嬉しいです。お子さんが思ったより小さかったので、説明にはより工夫を凝らしました」「チラシを周辺の学校に配ったり町会掲示板に貼ってもらったりしましたが、来年からはさらに周知を強めて続けていきたい」と話していました。

サルスベリ美しかった

市岡下水処理場で「お花見」好評



→「涼しい時間帯にお花見を」と開かれた市岡下水処理場の「お花見」（写真は八月二十四日の朝、サルスベリを案内する職員と来場者）

「涼しい時間帯にお花見を」と八月下旬の朝、

市岡下水処理場（市岡）で「お花見」が催されました。同処理場内の代表的な花である

百日紅

百日紅の開花時期に合わせた新イベント。

紅・白・ピンクの美しさ

開催されたのは八月二十三（土）、二十四（日）、三十（土）、三十一日（日）の各八時～十一時半。

訪れた区民は、機械棟の周りに植えられた百日

紅をはじめ、沈丁花、桜、枝垂れ桜、楠木、木蓮、

百日葵、

萼草などの花木を、

職員の説明に感

心したり、写真に撮ったり、スケッチしたりし

ながら観賞、ユニークな「夏の花見」を楽し

みました。台風や大雨にも負けず咲き競った百

日紅の紅・白・ピンクの花の美しさや健気さを

愛で、名前の由来となった独特のつるつるした

木肌を珍しがる声が聞かれました。

「来年以降も続けて」参加者

このうち本紙「あれこれガイド」を見て二十四日に訪れた六十代夫婦（田中在住）は観賞後、「広く落ち着いた環境で、職員さんの愛情ある世話を受けて育った植物は、のびのびして美しいと感じました。市民生活をまえてくれる下水処理

→場内ではヒマワリなど色とりどりの花々も



場の役割を知ってもらい、親しんでもらうためにも、こうした催しは大切。ぜひ来年以降も続けてほしいです」と話していました。

一般公開日写真など展示

案内役の職員によると、百日紅は同処理場の開設年（一九六一年）に、枝垂れ桜は開設二十周年（一九九一年）に、木蓮は同五十周年（二〇一一年）に、それぞれ植樹されたといっていました。また今回の来場者からは桜を植えたところか「百日葵の種や金魚は一般公開時のプレゼントにしたところか」などの提案があったそうです。なお今回の撮影写真や絵画作品は十月四日（土）の「一般公開」で展示される予定（十四頁「あれこれガイド」に一般公開の開催概要）。

あれこれガイド

●市岡下水道環境「一般公開」 汚れた水がよ

みがえる仕組みを学べる「施設見学」写真(左)のとは昨年の様子Ⅱをメインに、①微生物の

けんびきょう

顕微鏡観察②下水道の歴史を学べるDVD上

映③下水道資源の有効利用④ゲーム⑤みなりん

⑥ミニパトに乗れる(十時～十二時)などのコ

ナ。地球環境に優しい肥料や透水性レンガな

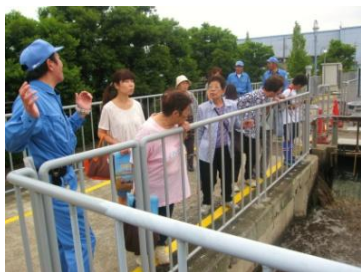
どのプレゼントあり。家族で楽しめる工夫がさ

れている。例年開催の真夏を避けて涼しい季節

に変更。十月四日(土)十時～十六時(小雨決行)。

施設見学最終回は十五時半から。市岡二・一五

・一五。☎六五七二・三三三三。



大切なことは海が教えてくれました。



●「海の日」記念・中学生海の作文コンクール

海への関心を高めるため毎年実施Ⅱ写真(右の

下)はイメージポスター。テーマは「海」だが海

運造船・港灣といった範囲にとどまらず、広く

海に関わるもの(題名は各自で付ける)。応募資

格は今年四月一日現在、大阪・京都・奈良・滋

賀・和歌山の各府県に所在する中学校の生徒。

原稿の長さは四百字詰め原稿用紙五枚以内(原

稿には題名・学校名・学年・ふりがな付き氏名

を明記)。締切日は九月三十日(必着)。入選発

表は十一月下旬。応募・問い合わせは主催の公

益社団法人近畿海事広報協会(〒552・000

21 大阪市港区築港二・七・一五 港振興ビル

二〇四、☎六五七三・六三八七)へ。

●港のまつり 「つながる」平和のために！

守る「子」どもの未来を「」を「」業に港大

正 西区の幼・小・中教職員や地域の人々が交流

する毎秋恒例イベント。四十五回目。メイン舞

台では「ジャズで平和を歌つ」と題してジャズ

ピアノの藤井美穂さん(一九六八年大阪生まれ、

関西中心に活動)とフリネットの滝川雅弘さん

(一九六〇年大阪生まれ、元教員による歌と

演奏を各職場・地域団体によるフリーマーケット

やバザーも。入場無料。十月三日(金)午後六

時～八時半に港区民センターで(メイン舞台は

六時五十分)。主催・連絡先は大阪市学校教育教

職員組合港支部や地域諸団体から成る「港のつ

どい実行委員会」(☎六五八一・四五四四)。

●社会保障「港区役所交渉」 医療介護福祉

など、特に高齢者に関わる問題で、大阪市の窓

口である港区役所に課題を提示し、解決を求め

る交渉。社会保障を市民の立場で検証し、行動

する人たちの集まり「大阪社会保障推進協議会」

が呼びかける毎年恒例の自治体キャラバンの一

環。十月九日(木)十時～十二時に港区役所五階会

議室で。参加自由。港区での連絡・問い合わせ先

は「港区民会議」(夕凧二・一〇・一六「港民主

商工会」内、☎六五七二・七八六七)。

●ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所

が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製

法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆

豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心

面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から

(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精

神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定

障害福祉サービス事業所（夕田一・六・三、
六五七一・七五二）。

● **ムチ打ち 省・腰 無料相談会** 交通事故で
ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談
会。九月十八日（日）十～十八時に行政書士
のむら事務所（築港三・七・一・六〇八）で。
一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで。
「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバ

イスします」「事故後、早めの相談が良い結果に
つながります」同事務所・野村光恵（みつえ）
メール：info@jikkoo10.com
ra.com TEL 六五七六・六〇七ハ、F
AX 六五七六・六〇七九。

● **大阪商工団体連合会へいしをすすめる制度の手
引き（大阪市内版）** 「市民税が非課税になる

と保険料や自己負担が軽くなる」「国保料や医療
費の支払いで困った時は」「介護保険料や利用料
が非課税世帯は安くなる」「国民年金の保険料も
申請で安くなる」「子育て世代やひとり親世帯の
負担軽減」「生活困難なときは生活保護を受けよ
う」「滞納処分（差し押さへ）から生活を守ろう」「
なすの項目も、市民生活に役立てる制度や対処法



を紹介するパンフレット＝写真。直接は市内の

中小零細業者向けだが、一般市民も希望され
ばよい。問い合わせは港民工商会（夕田
二・一〇・一六、六五七二・七ハ七）まで。

● **障害年金もれの心当たりある人は相談を**
障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害
年金を受けられるのに請求手続きをしていない
人が相当数（身体障害者では〇・四割、一人
程度）にのぼることが厚生労働省の調査で判っ
た（二〇一三年七月）。原因の大半は、「障害者
手帳に記載されている等級」と「障害年金の受
給要件となる等級」にずれがある。このた
め、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受
けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、

身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自
分は受けられない」と思い込んでいる場合など
は、申請しなければ、いつまでたっても支給さ
れないことになる。心当たりのある人は市岡年
金事務所（六五七一・五〇三二）又は港区役
所保険業務担当（六五七六・九九五ハ）まで。

● **石綿（アスベスト）パンフ** 肺がん、中皮腫な
どの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、
それらによる死に「アスベスト（石綿）による
ものだ」と認められたら、色々な給付を受ける
ことができる。このパンフレットは、そんな人
たちや家族のために、①石綿による病気にはど
んなものがあるか②石綿による病気と分かった
場合の補償や救済の制度にはどんなものがある
か③その場合について問い合わせたらよいか一
などを厚生労働省と環境省などがまとめたもの。タ
イトルは『その病気、その症状は石綿（アスベ
スト）が原因かもしれない』。港区で暮らすか
働いている人なら港区役所（市岡一・一五・二
五）三階の港区保健福祉センターのチラシスタ
ンドに設置してあるものを無料でもらえる。

弁天クラブが「連覇

バレー連盟杯、十四チーム熱戦



→ママさんチームが優勝を巡って熱戦を繰り広げた「連盟杯女子バレーボール大会」八月十七日、港スポーツセンター（写真は決勝戦）

今夏も区内のママさんバレーボールチームが一堂に会し、楽しくも熱い戦いを繰り広げました。八月十七日、港スポーツセンターで開催された「連盟杯女子バレーボール大会」には十四チームが参加、弁天クラブが優勝、MISAKIが準優勝を飾りました。港区バレーボール連盟（数下俊文会長）の主催で二十三回目。

● 四区大会出場をかけて

開会式では数下会長が「本当に暑い中、熱中症にならないよう体調管理を万全に、四区（港・大正・此花・西）大会出場権獲得を目指して練習の成果を発揮し、また家族の協力に感謝しながら、精一杯のプレーを」と選手たちを激励。来賓（港区選出議員と萩野久美子・港区体育厚生協会会長）を代表して藤田市議が「地域の支えや日頃の絆あつての毎年の開催に敬意を表します。こうした催しを通じて、健康で長生きでき、災害などにも強い、つながりがあるまちづくりをめざしましょう」と呼びかけました。

また選手宣誓の大黒広美・港南主将は「私たち選手一同は、昨日のお酒を汗で流し、今日一日の頑張りの『褒美に美味しいビールを飲む』こ

「ユーモア一杯に宣誓する港南・大黒主将」と大会を支えた港区バレーボール連盟役員①



とを楽しみとし（ここでも後ろを振り向き、呼びかけるように）飲むぞぞ（後ろの選手たちも「飲むぞぞ」と呼応）、応援・協力してくれる家族に感謝し、笑顔で楽しくバレーすることを誓います」とユーモアと元氣溢れるパフォーマンスで会場を沸かせました。

● 気力溢れるプレーに沸いた決勝戦

試合は十四チームが三コートで各一試合を消化。上位四チームが決勝トーナメント（準決勝→決勝）に進みました。

準決勝ではMISAKIが波除小学校PTAを二対〇（二十一対十九、二十二対十九）で、弁天クラブが港南を二対〇（二十一対十二、二

十一対八)で破って決勝進出。

決勝では両チームとも四試合目とあって疲れがピークに達する中、気力溢れるプレーの応酬で会場を沸かせましたが、決勝進出七度目の弁天クラブが大舞台での豊富な経験を生かして地力を発揮、決勝初進出のMISAKIを二対一(二十対二十一、二十一対十六、十五対五)で破って優勝を飾りました。

弁天クラブは第一セットを僅差で失ったものの、引きずらず、穴のない守備に加え、二枚セッター(藤川、青木)に八枚アタッカー(金城、奥澤、小田、栗田、杉森、西川)という攻撃層の厚さにも物を言わせてじりじりと追い上げ、第二セットを劣勢(八対十二)からの逆転で奪つと、その勢いで第三セットは全選手が攻守に躍動、本来の強さを見せつけました。一方のMISAKIは練習を重ねたクイックアタックや強力サーブなどで第一セットを奪つ健闘を見せましたが、第二セットを逆転で奪われると、最後は弁天クラブの勢いに押される形でイージーミスを連発、リズムを取り戻せないままゲームセット。五枚アタッカー(鐘嶋、井上、長谷川、高島城、赤木)

←二連覇と四区大会出場を喜ぶ弁天クラブ(前列中央右は港区バレーボール連盟会長でもある数下俊文監督、その左は高谷潔コーチ)



を中心とした、持ち味のスピードバレーを生かし切ることでできました。

弁天クラブは二連覇で通算四度目の栄冠。来年六

月の四区大会への出場権を三年続けて実力で獲得。一方のMISAKIは悲願の初優勝ならずも、初の決勝進出で新しい力の台頭をアピールしました。

三位は波除小Pと港南。他のチーム(SEE D、港南OB、港中OB、港南中PTA、八幡屋クラブ、AUNTS、築中OB、しろはと、波除女性会、市岡小PTA)順不同)も練習の成果を発揮して健闘。敗退後も最後まで、様々な役割を担って運営に協力しました。

● 打ち上げでは「品格もつて」

閉会式では上位(三位まで)チームへの表彰が行なわれると共に、浜口伊知江副会長が講評に立ち、「今年は参加が十四チームとかつてなく少なかったが、どのチームも練習の成果を発揮して充実した大会となった。優勝の弁天クラブは四区大会で港区代表として頑張っている。打ち上げの宴では周りに迷惑をかけないよう、品格ある行動を」と呼びかけました。

なお、会場にはいすみ鍼灸整骨院(弁天などに店舗の男女施術師二人が常駐して、「捻挫になりそう」などと訴える十数人にアープینگ

などの予防処置を施し、選手たちの安全を支えました。怪我などの事故はありませんでした。

●「新旧交代期の連覇つれい」

終了後、優勝準優勝チームに訊きました。

優勝の弁天クラブは数下俊文監督（港区バレーボール連盟会長）と高谷潔コーチの指導のもと、弁天小学校で毎週一回（時間と三時間の練習を重ねてきました。年齢幅は三十代から六十代。高尾治美主将は「決勝ではMISAKIさんの速いバレーに最初は戸惑いましたが、段々慣れてきて、最後はうち本来のじつくり丁寧なバレーを取り戻すことができました。今は新旧交代期にあたり、色々と試行錯誤を重ねていますが、その中でも連覇を目標に出場し、その通りになって、本当に嬉しいですね。四区大会では港区代表に恥じないよう、また今年（予選敗退）のリベンジもかけて頑張ります。基本は全員がほぼ出来ており、また誰もがこのポジションでもこなせるので、今後は二つ二つのプレーの精度を高めること、そして自分の得意なポジションを固めることをめざします」と喜びの中に顔を引き締めていました。

←準優勝を喜ぶMISAKI（後列右端は清水聖昭監督、同左端は祝福する港区バレーボール連盟・浜口伊知江副会長、その右は田中喜美子副会長、その前は福井真由美副会長）



●「嬉しいも悔しい準優勝」

準優勝のMISAKIは清水聖昭監督の指導のもと、三先小学校で毎週一回（時間と三時間の練習を重ねてきました。年齢幅は二十代から四十代。高尾治美主将は「決勝ではMISAKIさんの速いバレーに最初は戸惑いましたが、段々慣れてきて、最後はうち本来のじつくり丁寧なバレーを取り戻すことができました。今は新旧交代期にあたり、色々と試行錯誤を重ねていますが、その中でも連覇を目標に出場し、その通りになって、本当に嬉しいですね。四区大会では港区代表に恥じないよう、また今年（予選敗退）のリベンジもかけて頑張ります。基本は全員がほぼ出来ており、また誰もがこのポジションでもこなせるので、今後は二つ二つのプレーの精度を高めること、そして自分の得意なポジションを固めることをめざします」と喜びの中に顔を引き締めていました。

十代。高尾城主将は「レシーブを基本に、サーブやサーブカットなど練習の成果を発揮して、目標としていた決勝トーナメント進出はクリアできたので、その点では満足しています。が、昨年も苦杯をなめた弁天クラブさんにまたもや跳ね返され、悔しい思いもかなりあります。来年に向けては、チームとしてのまとまりはあるので、あとは個々人のレベルアップを図って行きたいと思っています」と話していました。

スポーツ短信

●大阪港ボーイズ（少年硬式野球） 八月十二・十三日に京都大会出場、一回戦は連続猛打で快勝、二回戦は僅差で惜敗。八月二十日は和歌山大会出場、力及ばず初戦敗退。三年生最後の夏は涙、涙で終わるも猛練習と全力プレーの範を後輩に残す。一・二年生の新チームは八月十四日、和泉ボーイズJr大会に出場、健闘及ばず初戦敗退。硬式に興味のある小・中学生の体験練習・入部説明随時。 ☎六五七一・六七五三スポーツさん又は ☎〇九〇・八三八五・四八五香西。

十代。高尾城主将は「レシーブを基本に、サーブやサーブカットなど練習の成果を発揮して、目標としていた決勝トーナメント進出はクリアできたので、その点では満足しています。が、昨年も苦杯をなめた弁天クラブさんにまたもや跳ね返され、悔しい思いもかなりあります。来年に向けては、チームとしてのまとまりはあるので、あとは個々人のレベルアップを図って行きたいと思っています」と話していました。

中学バド 今年も活況

一九八選手が爽やかなプレー



→港南中学校など十三校の一九八選手が元気で爽やかなプレーを繰り広げた「中学生バドミントン大会」八月三日、港スポーツセンター

「バドミントンを通じて中学生の交流を」と

今年も「中学生バドミントン大会」が八月三日、港スポーツセンターで開催され、地元の港南中など市内十三校から参加した三十チーム・百九十八選手が爽やかなプレーを繰り広げました。

港スポーツセンター利用団体交流会バドミントン大会実行委員会(岡野三津茂実行委員長が主催。シンコースポーツ㈱ 大阪市港区バドミントン連盟、BWAY井太町店が後援。六回目。

● 三年は東住吉中が優勝

大会は団体戦で、三年生の部と一・二年生の部に分かれ、各試合はダブルス・シングルス・ダブルスの順に進む。各ゲームはラリーポイント方式で、二十九点ゲームマッチ(延長は三十五点まで)で行なわれました。

このうち三年生の部には春日出、東三国、長吉、墨江兵、大桐、城東、東住吉、歌島、宮原、瑞光、港南の十一校から十五チーム・九十五選手が出場。三ゾーンに分かれての各総当たり予選リーグ戦。各ゾーン一位ずつの優勝決定リーグ戦の結果、東住吉中学校Aチームが優勝、東三国中学校Aチームが準優勝。地元の港南中

学校チーム(梅木優・三上葉奈・寺井雪乃・薮井鈴・長澤美枝・福田七海の六選手)は予選Cゾーンを一位で通過し、優勝決定リーグ戦では三位に入りました。

● 一・二年は友刈中が優勝

一方一・二年生の部には友刈、長吉、歌島、東住吉、大正西、城東、大桐、墨江兵、東三国、春日出、宮原、瑞光、港南の十三校から十五チーム・百三選手が出場。三ゾーンに分かれての各総当たり戦。各ゾーン一位ずつの優勝決定リーグ戦の結果、友刈中学校Aチームが優勝、東住吉中学校チームが準優勝、春日出中学校チームが三位となりました。地元の港南中学校チーム(田中望葵・山本利静・土佐優果・平菜摘・木島亜子・稲川なのは・綾部奈津子の七選手)いずれも二年生は予選Bゾーンで健闘しましたが、優勝決定リーグには進めませんでした。



交流を第一とした健康的な熱戦と共に、大会終了後には参加者全員で会場を清掃するなど、教育の視点を欠かさない主催者の運営ぶりも注目される大会でした。

リングに子供の歓声

「夏祭りプロレス」大活況



「リングの上で、場外で、子供たちの歓声が響いた「夏祭りプロレス」 八月十七日、港区民センターで（写真は「チビっ子プロレス」）

リングの上で、場外で、子供たちの歓声が響きました。八月十七日(日)に港区民センターで開かれた「みなとプロレスSP 夏祭りプロレス」には区内外から親子連れなど約百人が参加。プロレスを中心とした多彩な催しを楽しみました。プロレスで地域を元気に、「青少年に正義と勇気を」と活動する港区のプロレス団体「みなとプロレス」(代表:ミッキー隼野さん)による第四回特別興行。

◆歌やゲーム チビっ子プロレスも

オープンングではミッキー隼野さんが「今日はいつもと趣向を変えて多彩な催しを用意したので、親子で楽しんで下さい」と主催者あいさつ。歌手の中年乙女sumiさんが浴衣姿でリングに登場。保育士仲間の田中先生と共に懐かしい『恋のバカンス』などを熱唱。このあとリングの上では女性レスラーHARU。さんの司会で、子供たちを入れて「叩いてかぶってジャンケンポン」「妖怪ダンス」「チビっ子プロレス体験」などが次々行なわれ、場外では「ヨーヨー釣り」「スーパースクールすくい」などの模擬店が並びました。

「みなとプロレス代表・ミッキー隼野さん」と、オープンングでの「歌謡ショー」 ①



このうち「チビっ子プロレス体験」では、準備体操ルール説明・ボディーチェックなどのあと、巨漢レスラーを子供八人が連続回し蹴りなどで力を合わせて追い詰め、最後は見事なフオール勝ち。会場からやんやの喝采を浴びました。

◆スペシャルマッチ 試合

メインイベントの「みなとプロレススペシャルマッチ」は「試合行なわれ、第二試合(十五分一本タッグマッチ)は守屋博昭&グラン浜田組が佐野直&ジヨシユオブライエン組に十五分十五秒「エナジヤイストラム」で、第三試合(十五分一本タッグマッチ)はHARU。&AKK&ミッキー隼野ジュニア目世組が河邑嘉哉&黒影

&ディアプロ組に十三分四十二秒「チョークスラム」体固めで、それぞれ勝ちを収めました。

最後にレスラーを代表してAKさんがマイクを握り、観衆と共に、港区とみなとプロレスの発展を願って「いち・にい・さん・みなと」と唱和、大きな拍手と声援を浴びました。

◆魅力のパフォーマンス

次々と繰り出される高度な技、巨体がマットに叩きつけられる際のバーンという衝撃音、相次ぐダメージに耐え抜く強靱な肢体、息詰まる攻防の合間に見せるユーモア溢れる仕草や口撃―特設リングとその周辺で展開される肉体パフォーマンスは、プロレスファンならずと



「子供たちが楽しんだ」叩いてかぶってジャンケンポン」⑤と、ヨーヨー釣りなどの模擬店⑥

も思わず惹き込まれる魅力に満ちていました。特に場外乱闘では、観衆にかなりの恐怖を感じさせながらも決して危害は加えない絶妙のバランスに、プロの技量を感じられました。

◆「正義感と優しさが好き」と女性

観衆のうち羽野市から来た遠野千恵子さんは「HARU。さんの数年来のファンで、試合は欠かさず観に行っています。彼女のたくましさで正義感、特にお母さんの優しさがたまらなく好きです。娘の梨乃（五年生）も大ファンで、負けるとう泣するほどです。今日は楽しい催しをいっぱいして頂き、いい思い出になりました。娘はプロレス体験に出られてとても喜んでいました」と笑顔で話していました。

◆困難に負けない生き方示す

今回、これまでと同じように、各地の作業所などから障害のある青少年ら多数が無料招待されたことには、生きづらい社会で生き抜く弱者に寄せる主催者の温かな姿勢が感じられました。また、そうして招待された青少年が悪役の反則技に「きたねえぞ」「いい加減にしろ」などと声を張り上げる姿や、正義派レスラーの反撃に小

「メインイベントのプロレスでは息詰まる攻防や合間に見せるユーモアが観客を魅了した



学生らが「頑張れ」と拍手を送る姿からは、悪や困難に負けない生き方を青少年に示すというプロレス本来の役割を「みなとプロレス」が真摯に果たしていることが感じられました。

◆港区活性化願い、採算じむわず

この特別興行を企画したミッキー集野さんは、かつてアマチュア覆面レスラーとして活躍し、負傷でリタイアした後は後進育成などに注力。二〇二一年一月、自らが働き暮らす港区の活性化を願って「みなとプロレス」を旗揚げ。「不況や失業や貧困に苦しむ人たちを元気にしたい」と採算の厳しさをいとわず興行を続けています。

子供らの成長願って

西明寺などで地蔵盆にぎわう



→次々と繰り出されるショーに歓声が溢れた市岡・西明寺の地蔵盆。写真はバルーンプレゼン
トに群がる子供たち。八月二十二日夕

「地蔵を囲んで子供たちの安全や健康を願う子供中心の仏教行事」とされる「地蔵盆」の催しが八月二十三日二十四日を中心に区内各地で行なわれました。

◆紙芝居やコンサートが次々

このうち市岡丁目の紫雲山西明寺(浄土真宗本願寺派・西本願寺)では八月二十日に様々な催しが行なわれ、地域の子供たちの歓声が溢れました。同寺が主催し、港区役所、港区社会福祉協議会、地域の人々が協力しました。

境内や地蔵前では午後四時から六時半ごろまで、同寺の坊主(お堂の番人・熊本知子さん(住職夫人)の超明朗がつパワフルな司会で、紙芝居一座「千の風」による紙芝居、MAMA、S HOUSEによるバルーンパフォーマンス、美人ソプラノデュオ「レチ☆リチ」による手話コンサートなどのショーが次々と行なわれると共に、ミルクせんべい、チューペット、ジュースなどの模擬店や、スパーボールすくい、ストラックアウト、ジャンボガラガラなどの遊びコーナーが並び、さらに同寺婦人会員によるバザーや作品展示も同時開催。最後にゆるぎやう四休港

「子供も大人も競い合ってすくいまくっていた「スパーボールすくい」(上)と、爆発的人気だった「お菓子のつかみどり」(下)



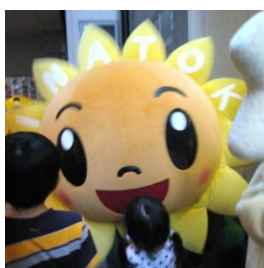
区「みなりん」、港区社会福祉協議会の「くしゅきょん」、浄土真宗本願寺派の「ファミちゃん」「ルンちゃん」のパフォーマンスやお菓子のつかみどりで、境内の熱気は最高潮に達しました。

◆「仏様のようきする機会」と参加者

繁栄商店街の告知ポスターを見て「回目の参加という源川奈美さん(南市岡三丁目在住)は「大人も子供も楽しめる、とても温かな催しですね。年一回、こうした行事があることで、仏様やお地蔵様や地域のことに想いを寄せられます」。奈美さんに抱かれた長女の詩音ちゃん(一歳はプレゼントのバルーンにつく)。そのそ

ばで長男・七偉くん(市岡小五年)、次男・祥皇くん(同三年)、その友だちの奥村和真くん(同四年)は「いっぱい遊んで面白かった」「バルーンは(小さい子供たちに譲ってしまったので)もらえなかったけど、スパーボールは百個以上もすくえて」「俺は百八十九個」など自慢し合い、最後にお菓子をもらって満足そうに帰って行きました。

また、やはりポスターを見て娘さん(三十代)と孫二人(市岡小五年、一年)を連れて初めて参加したという六十代女性(市岡在住)は「こういう催しがあることで、お盆のことやし様のことがまた子供たちの安全や健康について考えさせら



→「かわいいー」ともみくちゃにされる港区のゆるキャラ「みなりん」(上)と、港区社会福祉協議会のゆるキャラ「くしやきょん」(下)

れます。孫は一人ともおとなしい性格ですが、今日はみんなとスパーボールすくいなをして、とても楽しそうでしたと話していました。

◆「疲れ吹き飛ばしてポランティア」

一方、会場周辺の自転車整理などに汗だくで携わっていた勝部泰臣さん(池島)、平澤洋征さん(八幡屋)、下村和弘さん(井太らポランティアグループ)ゆづりゆづりメンバーは「子供たちが大勢集まるので、安全の確保、特に車の通行から子供たちを守ることに使います」「暑くて大変ですが、笑顔や歓声に触れると疲れも吹き飛びます」などと話していました。

◆「地域の拠り所として」住職

自らの息子配りなどに汗を流していた住職の熊本宜雄さん(五〇)は「この行事は、私が高校生の頃まで先代が催していたのを、地域の方々の協力を得て一昨年復活させることができましたが、今年もこんなにたくさん集まって頂き、感謝しています。このお寺を地域の皆様の拠り所として親しんで頂けるよう、またこうした行事を通じて港区が『あじさいがでる町』『安心して住み続けられる町』『住んで良かった

「初登場ながらユニークな風貌でかなりの人気を集めていた浄土真宗本願寺派のゆるキャラ

「アミちゃん」(上)と「ルンちゃん」(下)



たといえる町』『住みたいといわれる町』になるよう、これからも続けて参りたいと思っています」と話していました。

子や孫に
自分の人生を
のこそう！

島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注いできました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてもらいました。(70代男性)

お話をききとり、冊子にしてお渡しします。

40字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

健康的な雰囲気で

みなと麻雀大会 酒井さん優勝



→ 独特の緊張感と健康的な雰囲気が印象的だった第三十八回「みなと麻雀大会」 Ⅱ八月十八日、磯路三丁目の「マージャンひろ」で

「生きがいづくりや認知症予防に効果がある」と注目を集めている麻雀。その愛好者による港区最大のイベント「みなと麻雀大会（港区麻雀業組合主催）が八月十八日、「マージャンひろ」（磯路二一五・三、☎六五七四・六六四三）で開催されました。三十八回目。

◆ 賭けない・飲まない・吸わない

正午からの開会式では、まず港区麻雀業組合・中嶋弘副会長（七二）「マージャンひろ店主Ⅱが「八月二日を『パイの日』とし、これに因んで毎夏、各区で麻雀大会が行なわれてきましたが、長引く不況で西区・太正区・此花区などでは開催が途絶えた中、港区でこうして続けているのは、健康マージャンを愛する皆さんのおかげ」と参加者に感謝を表明しました。

続いて主催者を代表して（竹馬進 会長が怪我で入院のため）境目孝義副会長（七二）が「賭けない・飲まない・吸わない」がモットーの健康麻雀は、頭の体操になり、ボケ防止や認知症予防に最適。全国健康福祉祭（ねんりんピック）の正式種目にも採用されています」と健康麻雀の効用を紹介し、「今日一日、充分に楽し

「開会挨拶を行う境目孝義・港区麻雀業組合副会長（上）と、選手宣誓を行う三村富喜江さん（下）



んで下さい」と参加者を激励しました。

このあと前年度優勝者・桐本皇三雄さんから優勝トロフィーが返還され、競技者を代表して三村富喜江さんが「私たち選手一同は今日一日、健康マージャンのルールを守って楽しくプレーすることを誓います」と笑顔で爽やかに選手宣誓。最後に中嶋副会長が「アガリは常に一人（上家優先）」「王牌は常に十四枚残す」「フリテンはツモアガリのみ（リーチあり）」「二発（ソク）あり」「リーチ後すぐに裏ドラを見ない（上がった時に見る）」「ボン・チー・カン・ロンの発声を必ずすること」などのルールを説明。合わせて協賛店（喫茶店・居酒屋 酒屋 ギョーザ店 など十店舗）の紹介も行ないました。

◆ 数時間の知的な駆け引き

試合は正午半過ぎ、境目副会長の笛の合図で一斉にスタート。八十〜五十歳代の男女二十八人(うち女性十四人)が九卓を囲んで四回戦を行ないました。独特の緊迫感に包まれた数時間の知的な駆け引きの末、優勝は酒井尚子さん(七二)・奈良原菜登子市、準優勝は堂前信行さん(七五)・港区波除、三位は山本哲夫さん(七二)・兵庫県川西市、と決まりました。

閉会式では中嶋副会長が成績を発表。表彰式では上位賞(十位まで)だけでなく、最高得点賞(回戦ごと)、女性賞(女性トップ成績)、当日賞(十八位)、飛び賞(五・十・十五・二十・二十五・三十位)、ブービー賞(三十五位)なども設けられ、副賞には一・二位への自転車をはじめ、お酒、お米などをプレゼント。互いの健闘を讃え合う拍手や声援や笑いが飛び交い、長時間の緊張から解放された会場は一転して和やかな空気に包まれました。

最後に境目副会長が閉会の挨拶に立ち「麻雀業界は長らく不況で厳しい環境に置かれていますが、健康的な知的スポーツの場としてこれか

←優勝の酒井尚子さん(前列中)、準優勝の堂前信行さん(同右)、三位の山本哲夫さん(同左)と、祝福する港区麻雀集組・境目孝義副会長(後列左)、中嶋弘副会長(同右)



らも頑張つて参ります。来年もまたお互い元気な姿でお会いしましょう」と呼びかけました。

◆ 無心のプレーが生んだ初優勝

優勝の酒井さんは友だちに誘われて一年前から「みなと麻雀教室」(マージャンひろで毎週日・火・金曜開催)に通い、この大会には回目の参加で初優勝。大会終了後、大要次のよう

に感想を語ってくれました。

「今日は特に目標や作戦を立てることもなく、いつものように麻雀を楽しもうと無心で臨みましたが、思っても見ない結果になり、とても嬉しく、また驚いています。昔から多少は麻雀をたしなんでいましたが、本格的に楽しむようになったのは、この教室に通つようになってからです。麻雀の魅力は、知的ゲームとしての駆け引きの楽しさもちろんありますが、何より、色々な方との触れ合いがあること。このためなことをお喋りしながら、また優しく親切に接して頂きながら、勝敗にこだわらずプレーする時間はとても楽しく、幸福です。技術的には特にこれといって得意なものはない、目標も持たない私ですが、これから肩ひじ張らず、気楽に楽しく続けて参りたいと思っています。」

全体を通じて、麻雀には付き物とされる飲酒も喫煙もなへ、競技の前後には「お願いします」「ありがとうございます」と挨拶し合うなど、知的スポーツである麻雀本来の健康的な雰囲気(あつめい)が印象的でした。

核も戦争もない未来を！

朗読劇『被爆の証言』に反響



→忌まわしい原爆の記憶と切々たる平和への願いを朗読形式で表現し、反響を呼んだ『被爆の証言』の一場面。八月、波除の石炭倉庫で

「核も戦争もない未来をー」の叫びが胸を打ちました。あれから六十九年、被爆者の体験と思いを朗読形式で表現した『被爆の証言』あの日、あの時、わたしたちはーが八月下旬、波除のフリースペース「石炭倉庫」で上演され、反響を呼びました。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがにおまる一座のスタジオ公演。広島・長崎の原爆被害者の体験記からあんがにおまる座長が構成、脚本・演出。ヨシシ（よしし）原本さんら同一座のベテラン座員と共に、専門学校（大阪ア・メーションカレッジ）に学ぶ十〜二十代男女も迫真の演技で反核平和のメッセージを発しました。

◆胸に迫る圧倒的な真実

素材となったのは、大阪府原爆被害者団体協議会が一九九一年（平成三年）に刊行した『被爆の証言』（広島 百十二人、長崎七十五人。その中から劇団が広島八十七人、長崎二十五人を抜粋。これらを数人の役者が次々と交替で朗読するという構成で舞台は進みました。

核爆発の瞬間の光と音の衝撃、変わり果てた

「胸を打った焦熱地獄の中での苦悶の叫び」と凄惨な廃墟の中での悲しみや無力感の訴え



街の風景、収容所の凄惨極まりない光景、苦悶と死を前に何もできなかった無力感と悔恨、戦後も長く続いた原爆症の苦しみ。実際に体験した者でなければ口にできない事実や感情の生々しい表現の連続が、圧倒的な真実性をもって観客の胸に迫りました。そして、それらを集約する形で、現在の内外情勢（原発事故や集団的自衛権容認）を俎上に乗せ、戦争を起す者や未だに核を使おうとする者への怒りをストリートに表現。特に出演者全員思いを凝縮させたようなフストの「核も戦争もない未来をー」の唱和には崇高な響きがありました。

◆長丁場を飽きさせない演出も

そつした直線的な進行の一方で、戯面作家・

神野翼さんによるオブジェや仮面を使った小芝居、原爆を象徴的に表現した音響や照明（八上和裕さん）、希少な被爆映像の大写し、さらには群読や音楽劇形式を組み入れた演出が舞台にメリハリを与え、一時間に及ぶ長丁場を倦ませることなく運び切りました。また体験記の内容に合わせた各役者の熱情的で個性的な朗読には台本読み込みの蓄積が感じられました。

美しい詩（まるさん）と曲（岩城利之さん）と歌唱（梶岡志保さん）から成る挿入歌『八月の光の中で レウィエム』は紺碧の夏空を思い描かせ、被爆者の悲しみと平和への願いを一層掻き立てました。全体として、「できれば思いついたくはないが、忘れたふもときない」といって一人ひとりの血を吐くような体験を、単なる歴史の回顧に留まらず、「私たちの宝物」として現在と未来の平和のために生かすこの劇団の真摯な姿勢が伝わってきました。

なお観劇者には、朗読に供された体験集『被爆の証言』と原爆に関するデータをまとめた小冊子「原爆の被害」が無料配布されました。

演劇ガイド

● あんがのおまるの一座スタジオ公演『秋情れ寺前風景』 「ま、世の中、捨てる神あれば拾う

神ありで、うまくいってきまっせ。角度を変えて眺めてみたら、なんや、そんなことやったんかいな、よく見えてくるのが、ぎょうさんおまつせ「え、爺さんでつか。さあ、そのあとどうしてるんやろ知りまへんけど、もうなんばなんでもくたばってまっしやる。地獄でまた女子の尻、追い回してるかも知れまへんで」。大阪・下町の何気ない光景を優しく温かく、また面白く味わい深く描き取った直木賞作家・難波利三さんの短編からあんがのおまる座長が演出。出演はゆめゆめ、ゆめ、ゆめ、ゆめ。九月二十日（土）十四時、十六時、二十一日（日）十三時、十五時の四回公演。料金は前売 千円（同日・回通し券三千円）、当日 千五百円。詳細問い合わせは申し込みは会場の石匠倉庫（波除ハ・五・一ハ、JR弁天町駅から徒歩四三〇号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎ 六五八一・〇六八四、チケット専用フリーダイヤル〇二二〇・三三四一・三三九）へ。

ライブ情報

● 八幡屋出身ロックドラマー・梶田勝治さん所属バンド「ガーゴイル」のアルバム『解釈』好評発売中▽九月二十三日（祝）十八時四十五分から大阪ESAKAMUSEでガーゴイルのニューアルバム記念ツアー▽九月二十三日（祝）十一時半から大阪ZEARLINKでガーゴイルの店内イベント。 ☎ 六五一一・二二三一。

● 市国元町在住の音楽ユニット「花☆キヤラ」

生活に根ざした明るく前向きなオリジナルソング▽十月十一日（土）十四時～十九時、中崎町木ル（北区中崎西一・六・ハ、地下鉄谷町線）中崎町駅歩五分、旧済美小学校跡地、 ☎ 六二七五・二二〇〇）で開催の『2014 満月まつり in OSAKA』に十八・十七時演出予定です。入場無料。「HEIPPO 辺野古」：まるい地球まるい月、まるい心」をテーマにした演奏や出店で現地の満月まつり（十八回目）に呼応、「命どう宝」「ちゅら海に杭一本打たせろ」とのメッセージを発する。この海勢頭書さんは十八時、会場▽http://www.oconnor.jp/~haanaa2030000

日本の食文化を継承

甲二・七・三二

大鯉

⑦



→日本の食文化の復興めざして躍動する大鯉(株)

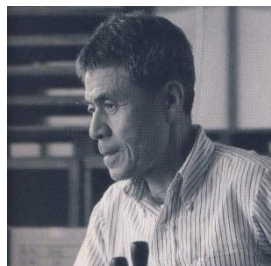
「とにかく利益を上げて勝ち残れ!」と非情・不毛の競争がエスカレートする現代社会。その中で「まずは世のため人のため。利益はその結果」と企業活動本来の姿勢を崩さない誠実企業を紹介するシリーズ。

今回は鯉節問屋として六十数年の歴史を持つ「大鯉株式会社」(甲二・七・三二)の五代目社長・山中政彦さん(四七)を訪ねています。前身では全国の鯉節生産地や卸業者をつなぐ同社の業務内容、次いで鯉節への情熱に溢れた初代社長からの経営や業界貢献の歴史を語ってもらいましたが、今回は現社長の経歴、そして将来展望につながる経営理念に迫ります。

◆ **いついふで、まは、自身の経歴を語って頂けませんか?**

はい。私は一九六七年生まれで、二つ見えても(笑) 芦屋生まれの芦屋育ち。自分で言うのも何ですが(笑)、小中学校を通じて成績はトップクラス、名門といわれる私立高から東北大学文学部中学科に進みました。高校時代に哲学に興味を持ったからなのですが、その一方で父・政男はよく同業者から冷やかされた二つです。

←経営を語る山中政彦社長①と、同社長を支えてきた下村和弘さん(二代目社長の息子)②



「なんで東北やねん」「なんで文学やねん」「商売も人脈もでけんやないか」「アホちゃうか」(笑)と。それでも父は「好きにしたらよろしい」といついふで、「後を継げ」とも言いませんでした。自分でもその気はなかつたし、むしろ高校を出たら家を離れたい、関西を離れたい、それまでの自分と縁のない土地で生活してみたい、と思っていたのです。

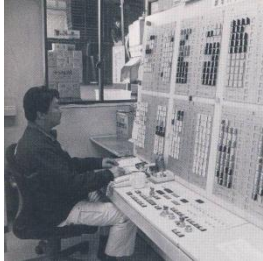
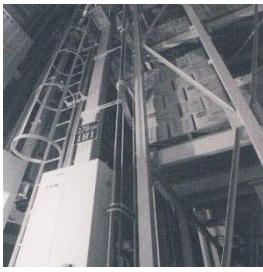
◆ **分かります(笑)。大学では特に何を学ばれましたか?**

日本を代表する哲学者・西田幾多郎(にしだ きたろう)に心酔し、その思想をベースに『永遠なるものについて』と題する公論を仕上げました。二つとき強く意識するようになったのが「原点回帰」といついふ

葉で、これは後の人生に大きな影響を及ぼしました。その一方で、得意の水泳を生かして潜水（ダイビング）部員としても活動しましたが、その中で、利害が対立する地元漁師とダイバーの共存のための活動に携われたことは、リーダーシップや調整力の必要を学べたという点で、やはりその後の人生の大きな財産となりました。

◆ 哲学とダイビング、その先に就職は？

ダイビングを通して海と魚の魅力を知ったことで、就職先には大洋漁業（後のマルハ、現マルハニチロ水産）を選びました。そこで配属されたのが、なんと「かつお・まぐろ事業部」。不思議な縁を感じながら、東京築地市場を舞台に「ビジネス」「魚の流通」「情報と相場の関係」



→大鰲では在庫管理や搬送は完全コンピュータ制御で行なわれる。上は倉庫内、下は制御室

などの実際を学んでいきました。その中で次第に自分の「DNA」つまり「原点」を意識するようになり、二年半の勤務の後、大鰲へ途中入社した訳です。

◆ まるぽフーメランのように（笑）鰹節問屋へ舞い戻った、異色の経歴ですね。とはいえ、それからが大変だったと思いますがー

おっしゃる通りです。周りがみな先輩の中、荷の積み降ろしやトラックでの配達・営業などをこなしながら、一人残って経理や簿記を猛烈に勉強しました。その一方で、大鰲の経営でできるだけ客観的に見ようと努め、その中で、従来のやり方の限界も見え、「改革」の必要を感じるようになったのです。たしかに先代・先々代は、鰹節問屋の生命線は「在庫力とスピード」にあるとして、その面での基盤を築いてくれましたし、それは鰹節の「プロ」としての絶対条件でしたが、その上さらに私は「鰹節のプロ中のプロ」でなければならぬと考えた訳です。

◆ ぜひその「プロ中のプロ」の中身を聞かせて下さい

「存じのよう」、鰹節問屋を取り巻く環境は

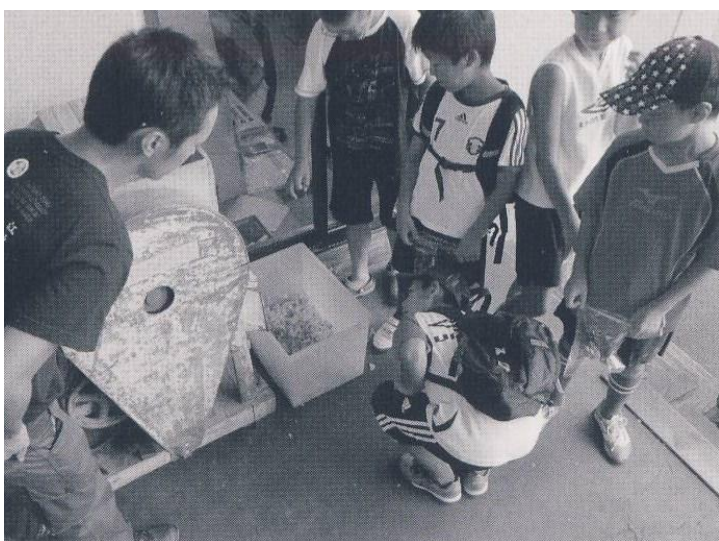
明るくありません。水産資源の減少、世界的な魚食拡大による原魚不足、さらに景気の低迷と和食離れ、外食企業の低価格志向、流通はネット化し、購買スタイルも日々変化するなど、先行きにはいくつもの問題が立ちはだかっています。だからこの会社の舵（かじ）を握る者として「改革」を強く意識したのです。

早い話が、鰹そのものも日本の沿岸で小さな船で獲（と）っている時代ではありません。多くは善（よ）網船団（あみ）で赤道付近の遠洋で獲ってきます。これまで通りにやっていたら、問屋は時代に置き去りにされます。そうならないためにも鰹節問屋の「原点」に立ち戻らなければならないと思っただ訳です。

◆ その「原点」は？

日本人は決して鰹節の旨味（うまみ）を忘れた訳ではありません。にもかかわらず、今言った環境変化の中で、鰹節業界そのものは非常に厳しい局面にあります。ならば「鰹節のプロ中のプロ」である我々こそがその活路を開くべきである、その活路とは何かーそう考えた時に出てきたのが「日本の食の文化と精神を後世に継承してい

「とてつ、いわば鰯節問屋としての然ちもいえる役割でした。つまり、日本人の中に眠っている食への底知れない奥深さを 甦よみがえらせることができれば、鰯節の活路は自ずと開けるであろう、これが現在の状況下で立ち返るべき鰯節問屋の「原点」であり「使命」ではないかと」。



「日本の食文化継承のため大鰯は近所の子供に削りたての鰯節を提供する活動などを展開中

◆ 納得です。ではそれを後で具体化しようと考えておられるが、最後に聞かせて下さい

若い世代を含めた世の中に鰯節の味を知ってもらう努力、新しい市場を創造する取り組み、いわばプレゼンテーションが必要ですよ。その土台はやはり、低価格偏重へんちようの今の流通にあっても手間ひまを惜しまない製造品質重視の丁寧な販売を心がけ、それによって鰯節そのものの価値を高めていくんですよ、それだけでなく、日本の食の未来を担う子供たちに鰯節の味を体験してもらうなどの積極的なPR活動が必要ですよ。問屋は生産者と消費者をつなぐ、いわば架け橋のような存在ですから、そうした活動を行なうのに最適な位置にあり、我が社も既に近所の小学生たちに削りたての鰯節を提供し、家に持って帰ってもらうなどの活動を始めています。そのような活動はすぐ販売増に結びつきます。うなものではありませんが、長い目で見れば必ず日本の食文化を甦らせ、鰯節をこの家庭の台所や食卓にももたせ、引いては鰯節業界の明るい将来につながると思っています。原点に立ち戻ることがすなわち未来を開く鍵にもなる

「鰯節のプロ中のプロ」として日々研鑽を重ね、結束する大鰯株式会社スタッフ



とてつとてつ。

◆ 日本の食文化の復興という大きな立場に立った経営姿勢に深い共感を覚えます。これからも、そうした崇高な理念の実現に向けて、この地で未永く活動し、発展されることを期待します (おわり)

盲導犬チャリティ来年こそ！

藤かほりさん 事故で無念の中止



→今年も九月に開催される予定だったが、藤かほりさんの怪我のため中止となった「盲導犬チャリティショー」の写真は昨年の模様

「目の不自由な人たちに盲導犬を贈りましょう」とと波除在住の演歌歌手・藤かほりさんが九月に港区民センターで開催する予定だった二十回目の「盲導犬チャリティショー」が中止となり、ファンや関係者を残念がらせています。

●「二頭でも多くリハビリ」専念

藤さんによると、六月十四日、自転車で移動中、靴の紐がペダルに巻きついて転倒し、左大腿骨を骨折、入院の上、手術しました。リハビリに時間を要することから、関係者とも相談の上、「盲導犬チャリティは中止」としました。これについて藤さんから八月十九日、本紙読者へ要旨次のようなメッセージが届きました。

「港区の皆様は温かな支援で続けて参りました『盲導犬チャリティ』が二十回目を迎えるはずでしたが、自分の不注意から不意なことであり、申し訳ない気持ちで一杯です。これまでの支援の蓄積を無駄にせず、目の不自由な人たちに二頭でも多くの盲導犬を贈るため、また皆様と笑顔で再会できることを楽しみに、今は杖道の稽古もお休みしてリハビリに専念しています。皆様の健康をお祈りすると共に、

「目の不自由な人達に盲導犬を贈るため、リハビリに励んでいます」と意欲を見せる藤さん



変わらぬ支援を心からお願ひ申し上げます」

●収益は福祉施設へ

「盲導犬チャリティショー」では例年、『男の夢一代』『人生荒野』など艶も情も迫力もある「がほり節」がたっぷり聴けるのに加えて、藤さんの志を応援する多彩なゲストが登場。ショーの収益は視覚障害者のための総合福祉施設「日本ライトハウス」に贈呈されてきました。盲導犬一頭の養成には約二百万円かかるそうですが、藤さんは十年前すでに二頭分を完納。九年前からは「二頭目を贈りましょう」と気持ちも新たにチャリティを続けています。

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづる「当地ドラマ」。シリーズ第五弾は、築港在住の九代女性が七十年代前に経験した、はかなくも美しいラブ・ストーリー。その最終回。

ぼて丸の恋 (五)

(前号まで) 築港に一人暮らしす九十過ぎの世津子は、ブイサーブスから帰った春の夕方、地域新聞社長から昔の思い出を綴るよう勧められ、遠い日が甦った。一愛嬢の浜に育った世津子は紡績工場で働いた後、大阪へ出、市岡パナダイスに近い叔母の玉売屋で働くようになった。昭和十七年春、「ぼて丸」と渾名されるほど太った十九歳の世津子は、客でタクシー運転手の青年・平田から思わぬ誘いを受け、新緑の宝塚に遊んだ。ベンチで故郷の事など喋り合った夢のよつな時間。しかしその翌日から平田は姿

を見せなくなった。秋になって聞かされたのは、彼は戦地へ向かったこと、そして「ゲーム取り（ビリヤード）働けきなんかと行きさうな」という上司の偏見が彼を苦しめていたことだった。その生死も分からぬまま戦争は終わり、やがて再び大阪へ出た世津子は築港で寿司店を経営。好景気にも乗って店は繁盛した――

♥ お好み焼き店も営む

店の裏には十人ほどの若い衆を抱えたヤクザの事務所があり、近くには船乗り相手の売春婦、いわゆるパンパンも多く、そんな人たちもよく食へに来てくれた。外人船員との間にできた「スエフ」という名の赤ちゃんを抱えたパンパンを、店の一階にしばらく住ませたこともあった。石油ショックなどを経て景気も落ち着いた昭和五十（一九七五）年秋、寿司職人の使い込みなどから雇用の煩わしさを感じ、いったん店を閉じた上で、今度はお好み焼き店を一人で営むようになった。これも寿司店時代からの馴染み客で長らく賑わったが、八十路に入ってから体力の衰えを自覚し、もとより人を雇うことも頭にのぼらず、平成十九（二〇〇七）年春、惜

しまれつつ店を閉じた。

♥ 母の心配が祟った

この間に、母親が九代で他界した。母親は、世津子が店を営むようになってから毎年のように関西汽船でやって来ては、「変な男に引っかけらんように」「板場の（若いものと仲良つなつたりせんように）」と世津子の身辺を異常なほどに心配しながら、何カ月も店を手伝ってくれたりしていたが、世津子がたまたまお盆で帰郷していた時、妹夫婦にも看取られながら、老衰で眠るよつに逝った。幸か不幸か、母の心配癖はその後も威力を及ぼし続け、世津子から男を遠ざける結果となった。

ただ四十代の頃に一度だけ、妻を亡くした男性客に言い寄られ、母には内緒でふた月ほど、外で食事するなど形ばかりの交際を続けたことがあったが、家を訪ねた時、小学四年生の娘に「お母さんはいらん、女中さんならえ」と言い放たれ、それっきりになった。

♥ 腰を痛めて入院生活も

こうして戦後も悲喜こもも色々なことがあり、店を閉じてからは、独り身の気楽さ・寂し

さを裏に表に感じつつ、わずかな年金を頼りに、少々退屈な日々を過ごしていた世津子だったが、閉店から三年ほど経った平成二十二年（二〇一〇）年の暮れ、転倒して腰を痛め、約三カ月間、生まれて初めての入院生活を送った。

そして、退院後は病院の勧めもあって、NP〇が運営する介護施設のデイサービスを受けている。週一回、午前中に車で迎えに来てもらい、入浴や昼食のあと、ゲームなどをして夕方までの時間を過ごすのだ。

♥ 長生きの幸せがみしめながら

そんな日々を送り、長生きできた幸せをかみしめながらも世津子は、自分を可愛がってくれた兄が戦病死したことや、郷里の三芳町（みよし）では兄の他にも一家で二人も三人も戦死者を出した家があり、自身の同級生を含めて計八十人も戦死者のお墓が並んでいることから、「戦争だけは二度としてほしくない。家族が悲しむだけや」と強く思っている。「国のため犠牲になった皆さんの人たちのためにも、日本がもっと年寄りを大事にする国になってほしい」と願ってもいい。二年前、地域新聞に載せてもらった「戦争

体験」はたしか、あの社長が世津子のそんな言葉でしめくくってくれたことで、何かしら、戦後六十何年かの胸のつかえが下りたようにも感じたものだった。

そして今もなお、その戦争に断ち切られたまま続きを見ない、あの夢のような春の一日を、世津子が懐かしく思い返さない日はないのだ――。

気が付くと六時を回っていた。春はいいえ、昼間よく晴れていた分、ぶるつと来た。握りしめていた鉛筆を置き、炊飯器に火を入れた。「さて、何を食えるかな」と腰を上げ、すつかり暗くなった外へ出た途端、昼食のメニューを思い出した。「鶏の唐揚げに玉葱の天麩羅に、トマトにキャベツに、それから味噌汁も付いたな」。そう口に出してハハハと笑った。忘れていたことを思い出すといつとは認知症ではないかと、いつかデイセンターへ講演に来たところかの先生が話してくれたが、そのことを思い出せたこともまた、世津子の心を軽くしてくれた。スーパーまでは世津子の覚束ない脚（あし）でも十

分ほどだ。まはゆい店内で「晩は和風でいいか」と、小さな発泡スチロール容器に収めたほうれん草のおひたしと肉じゃがを買った。

店までの帰り道、あの日のように、東の空に白い三日月がかかっていた。その下で、港町活性化のため十数年前に造られた大きな観覧車が赤や緑の光を放っている。店の暖簾（のれん）をくぐった時、「ボ、ボ」と遊覧船サントマリアイの汽笛が聞こえた。おかずをテーブルに置き、ソファに腰を下ろしてテレビを付けると、七時のNHKニュースが始まった。

「そつや、もしあの人がひょっこり訪ねて来られて、一緒にませんかと誘われたら、きつとこつ言おう。は、はい。よかつたら、昼は遊覧船で港を巡り、夜は観覧車から港町の夜景を眺めませんか。それによかつたら、もう一度、あの宝塚へ。あの頃は戦争で閉じられる寸前やつた宝塚大劇場が、今は百周年とかで、たいそう賑わっているそつですよ。今度は一日でも一日でも何日でも、時間を気にせずめぐらう。もう帰りを心配する人は誰もいませんから――」

平和のため

戦争体験

語り継ごう

すぎはら あなこ

杉原麻子さん(九四) 南市岡在住 ②



前あらすじ 一九〇年香川県の農家に生

まれた私は、中国大陸で戦火が拡大する中、尋常小学校、高等女学校を経て看護学校に三年間学んだ後、赤十字病院で一年間、中国から送られてくる傷病兵の看護に追われた。二十歳で結

婚し、満州の首都新京へ。休日には大車で観光を楽しむなど不自由のない生活を送ったが...

ソ連参戦で大混乱

北朝鮮に逃れ、疎開生活へ

一九四五(昭和二十)年四月、戦局悪化による兵員不足からでしょう、三十一歳の夫にも召集状が届きました。すぐさまソ連との国境付近へ送られ、その後はどこかの部隊にいるのか、生きているのか死んだのかさえ不明でした。私は最悪の事態も覚悟しました。その時、私のお腹には四ヶ月になる長女がいました。

◆夫に続いて弟にも召集状

そんな中、六月に突然弟が訪ねてきました。見る影もなくやつれた姿に、異郷で肉親に巡り会えた嬉しさも半減しました。奉天(現在の瀋陽)工業大学で学生生活を送っていた弟は徴用され、道路工事や塹壕掘りに何カ月も従事させられた挙げ句、過酷な労働と栄養失調で倒れて放免され、ようやく私のいる新京に辿り着いたのです。幸い弟は翌日から私の懸命の介抱

「終戦近くまで住んでいた満州・新京の自宅(夫が営む杉原商会の社屋を兼ねていた)前で



でぐんぐん体力を取り戻しました。

八月に入ると、その弟にも「十五日に入隊せよ」との召集状が届きました。しかし関東軍(満州にあった日本陸軍の部隊)に確認に出向くと、「この度は自宅で待機せよ」とのこと。今から考えると既にこの時、軍内部では敗戦が予想されていたのかもしれない。

◆「虐殺される」と駅前へ殺到

ともあれ戦局はいよいよ悪化し、それまで住んでいた社宅が中国人街に近く、危険になったので、近所の王さんに家具ごと安く譲りました。知り合いの王さんに頼んで大車を一台借りて

もらい、それに荷物を積み、私も乗って、軍官舎の多い緑園地帯へ引越しました。ここなら大丈夫と思ったからです。しかし、それが大きな間違いだったことはすべに分かりました。

八月九日、新京市の駅前広場は人の波と怒号悲鳴で戦場のようでした。その前日にソ連が参戦したこの報を受け、「すべて近くまで来ていゝ」市内へ進入されてからでは手遅れだ「虐殺されるかもしれない」などの噂が飛び交い、「とにかく一刻も早く安全な所へ避難しなくては」と人々が雪崩のように押し寄せたのでした。

私も弟や隣組（戦時中の地域組織）の人たちと一緒に、防空頭巾にモンペ姿、お産用品を入れたリュックを背負って駆け付けました。腰には、前日銀行が閉鎖になる直前に運良へ下ろせた三万円（独立資金）と内地の父が田畑一町歩（約三千坪）を処分して送ってくれた大切なお金（たぐ）を巻き付けていました。

◆ 行き先も分からず無差別な戦中

「いゝままで行くのさ」と誰に訊いても「知らない」「知らない」。無差別な戦中の中は私と同様、目的地も分からないまま、「取り残されたら大

変」と夢中で飛び乗った人たちはかりでした。ぎゅっぎゅっ押し込まれたため、座る場所を確保するにもひと苦労。トイレは隅にあるバケツ一つ。駅で停車する度に「間梯子を掛け、それを降りたり昇ったりして先を争うように用を足すので、お腹の大きい私には大変でした。

大陸の真夏の日差しは強く、貨車の上は蒸し風呂でした。汗は滝のように流れ、日射病に罹る人も出ました。夜は匪賊や馬賊（集団で強盗などをはたらくグループ）の襲撃から身を守るため明かりを消し、息をひそめて眠りました。

奉天まで来た時、弟は列車を降りました。「学校に戻れば何とかなるから」せっかくなかへえたのに……。悲しい別れでした。

たった一人の肉親だった弟と別れ、心細かった私を支えて下さったのは、社宅でお隣だった奥さんでした。彼女は子供もなく身軽だったので、「私に付いて来ていればいいのよ」とよく面倒をみて下さり、本心に心強く、頼りに思いました。

◆ 教室に収容、束の間の憩い

一日で行けぬものを、日もかかって八月十

一日、貨車は鴨緑江を渡り、北朝鮮に入りました。停まったのは新義州から五つ目へらしい小さな村の駅。そこが目的地でした。

その土地の小学校の校長が日本人だったので私たちはそこに収容されました。教室ごとに人数が割り当てられ、板の間にじかに寝起きしながらの疎開生活が始まりました。

食事は当番制で、唐辛子の佃煮など刺激が強いものが多く、体に悪いとは思いつつも、他にないので食べざるを得ませんでした。それでもその頃はまた戦争に負けていなかったもので、私たちを目当てに学校周辺に現地の物売りが来るようになり、朝鮮紙幣（当時、日本のお金と千円ずつ交換してもらっていました）を使って蒸かし芋などを買い、空腹を満たしました。

近くにきれいな小川がさらさら流れていました。お隣の奥さんと二人で時々そこへ行き、体を洗ったり、土手の草の上に干した洗濯物が乾くまで榆の木陰で昼寝をしたり、そこは束の間の憩いの場所でした。

しかし治安がよかったのはほんの四〜五日で、連日の八月十五日を迎えたのでした。（つづ



写真で旅する港区あの時

▼市電引込線（一九五九年・朝潮橋）



大阪市電・港車庫は一九五四（昭和二十九）年七月十日、夕屋町二丁目（現在の夕屋 丁目のシティコーポ朝潮あたり）に建設され、上の写真のよつに、本線軌道から分かれて車庫へ通じる、いわゆる「引込線」が敷設されました。車庫には五十八両が収納され、それらが一日に走った距離は合わせて七千五百キロに及んだ（一九五五年現在とされています）。戦災復興と高潮対策を兼ねた「港地区復興土地画整理事業」（一九四八・一九九二真つ最中のことでした）。

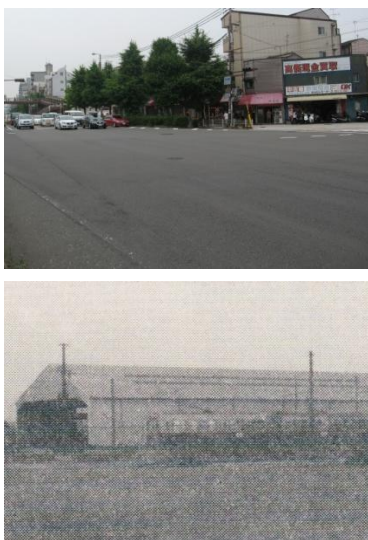
◆ 地上げの中で車両が行き交った

上の写真は敷設から五年後の一九五九（昭和三十四）年四月、築港から西区境川方面へ向かう市電が朝潮橋を通過する様子を、当時三十歳の山本安孝さん（八五〇田中）が写したものの。左へ曲がる線路が港車庫への引込線、手前で遊ぶ姉弟は山本さんの娘さん（当時七歳）と息子さん（同四歳）です。山本さんはこの辺りは地上げの慌ただしい中で、電車が頻繁に行き交っていましたね」と当時の様子を話してくれました。

◆ 車社会の到来で市電は廃止

その後、戦後経済成長による車社会の到来に

←上と同位置（八幡屋公園南端から撮った引込線付近）（現在は中央大通とみなと通が分岐する交差点辺り。右向うは池島一丁目）と、建設当時の港車庫（現在の朝潮橋駅付近）



合わせた路面電車廃止の全国的な流れは大阪市電をも巻き込み、まず一九六〇（昭和三十五年）八月に港車庫〜大阪港間が廃止、一九六八（昭和四十三年九月）には港車庫〜境川間も廃止。これにより、一九〇三（明治三十八）年九月に「最初の車両が西区花園橋〜築港棧橋間（約五キロ）を走り、その後の全国に誇る市電網建設の先駆けとなった港区内の市電は姿を消し、引込線もその役割を終えたのでした（歴史部分は港区役所発行『港区誌』『みなととて』より抜粋調整）。

ミニ文化案内

● 港図書館

①図書展示「食育の本」展＝生きるために欠かせない「食」。心豊かな食生活のために、食に関心を持つてもらえる本を一堂に。

十月三十一日(金)まで開催中②第四回「One Book One OSAKA」展＝同展で投票された本を紹介。十一月二十八日(日)まで開催

中③おたのしみ会＝毎週水曜日十五時半～十六時、じゅたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④あかちゃんのおたのしみ会＝毎月第一金曜日(十月は三日)の十一時～十一時半、じゅたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要⑤休館のお知らせ＝本や雑誌などの蔵書点検などのため九月二十四日(水)～二十九日(月)は休館。☎六五七六・一三三六。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団『第六〇回定期演奏会』

「藤岡幸夫&関西フィル、シベリウス交響曲全曲ツィクルス第三夜」と題して

シベリウス畢生の名作、交響曲第4番などを贈る。演奏曲目は、①シヨパン：ピアノ協奏曲第1

← 関西フィル定期演奏会で指揮を担当する藤岡

幸夫さん(◎青柳聡(上)と、ピアノ独奏を担当する萩原麻未さん(◎Akira Muto)



番 木短調 作品11②シベリウス：レニンシカイネンの帰郷 作品22・4③シベリウス：交響曲第4番 イ短調 作品63。指揮は関西フィル首席指揮者・藤岡幸夫さん。ピアノ独奏は二〇一〇年ジュネーブ国際コンクールで日本人として初の優勝を果たした萩原麻未さん。十月十日(金)十九時からザ・シンフォニーホール(JR大阪環状線「福島駅」から北へ歩約七分)で。十八時四十分から指揮者プレトーク。S席五千円、A席四千円、B席三千円、学生席二千五百円(以下)千円(全席指定・消費税込)。☎六五七六・一三三六。

● 弁天町ORC2000生涯学習センター「オーク弁天寄席」

旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第四回、通算第三七回。九月二十四日(水)十九時

～二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講談師、旭堂南稜門下)をレギュラーに、今回は笑福亭枝鶴さん(大阪

市出身、笑福亭松鶴門下)、旭堂南海さん(加古川市出身、旭堂南陵門下)も。先着百十名。当五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC2000店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎八五七七・一四



→ 弁天町ORC2000生涯学習センター「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家・笑福亭學光さん(上)と講談師・旭堂南麟さん(下)

一〇。

● 井大町オーフORC200生涯学習センター・井大

シネマ倶楽部『黄色いリボン』 「心に残る名

作映画を低料金で多くの市民に」と旧・井大町

市民学習センター時代に企画され、人気を博し

たイベントの再開第一回、通算第三十五回。長

年務めた騎兵隊の退役を八日後に控えた老大尉

ネイサンは最後の任務として上官の妻と姪の

護送にあたるが、先住民の大軍に阻まれ失敗。

古い友人である酋長との和平交渉に臨む。素

朴ながらも胸を打つ酋長の言葉、そしてネイサ

ンの考えた「敵にも味方にも死者の出ない」作

戦とは…。監督はジョン・フォード。出演はジョ

ン・ウェイン、ジオアン・ドルー他。一九四九年、



→ 井大シネマ倶楽部『黄色いリボン』の二場面

アメリカ、カフ、一〇三分。九月二十七日(土)

十時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百

円(金五五百円)。定賞は各回先着百名。当日十

一時四十五分からロビーで無料ライブを予定。

八五七七一・四一〇。

● シネ・ヌーヴォー誕生90年記念 増村保造の

世界 戦後日本映画の新世代を代表する映画

監督・増村保造の生誕九十年を記念して八月三

十日〜九月十八日に三十作品を特集上映中。

溝口健や市川崑の助監督を経て一九五七年

『くちづけ』でデビュー。大映専属監督として

倒産(七二年までに四十八本、フリーでも九本

を監督。日本の情緒や雰囲気(あらが)に抗い、主張し

戦つ強烈な自我を持った「個人」を一貫して追求。

性愛や資本主義、暴力などの欲望をスピード感

溢れる語り口で狂気に近いレベルまで表現する

という、日本映画では稀有なスタイルへと結実

した。九月十五日以降の上映予定作品は、『女

経』『女の小箱』より 夫が見た』『記』『黒

の超特急』『兵隊やくざ』『清作の妻』『刺青』『赤

い天使』『痴人の愛』『セックス・チェック・第の

性』『盲獣』『女体』『でんきくらげ』『遊び』『大

「売春宿に売られ盲目となった少女の苦難の人

生を描いた『大地の子守歌』①と男女の道行

きを圧倒的な熱情で描いた『曽根崎心中』②



地の子守歌』『曽根崎心中』『この子の七つのお

祝いに』。当日一般四百円。上映スケジュール

など詳細は同館(西区九条一・二〇一四)地下

鉄九条駅⑥出口歩三分、阪神なんば線九条駅②

出口歩一分、八五八・一四二六へ。

● 川島雄美子作品展 平和の願いをキャンバス

に込めて絵画人生を送ってきた川島雄美子さん

(八三)八幡屋在住IIが昭和三十六年からほぼ

毎年開いてきた個展。五十二回目。リアリズム

を基調にした迫力と温かみのある風景描写が特

徴。油彩・水彩・スケッチなど。十月七日(火)

〜十月十八日(木)の十一〜十八時に画廊&ア

←「川島恵子作品展」が開かれるガレリア・リバリア（三先）^①と、展示作品から「ニルギリ南峰」（油彩、F100号）^②



トリエ「ガレリア・リバリア」(三先)・三二八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐで。入場無料。☎七五〇二二四二八八。

●風庵「トルコ手織キリム展」 キリムとはト

urkum

ル「語で「平織」のこと。遊牧民の母から娘へと数千年も前から受け継がれてきた手織りの織物。大量生産のラインからは生まれない、土や森や山の匂いのする、荒々しさと優しさが共存するような風合^{ふうあひ}いが特色。九月三十日（火）まで「ギャラリー&カフェ 風庵^{ふうあん}」で開催中。風庵は南市岡三二二一〇（繁栄商店街内）、☎四九六五・五九八一、十時〜十八時開館（日曜

←風庵「トルコ手織キリム展」のイメージ



定休）。

●ねじやらしのシャンテ☆カフェ 懐かしい

歌にきいも若々も声を合わせるイベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター（八幡屋一・四二〇）で。不定期にゲストを迎え、リクエ

ストを中心に約「時間、即興で進行。歌集賞与。



→過去の「ねじやらしのシャンテ☆カフェ」

参加費千円(税込)。第五回は九月十七日。特別ゲストは関西合唱団の現役団員。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」(弁天四二二・一一三〇二) ☎六五五六・六八八八、携帯〇九〇・一五九九・六八五五 喜多、<http://necojoyarasi.jimdo.co>m または「ゆずりはの会」(☎六五七一・六八四二)まで。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌

手松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」「HAMORRI・BE(はもりべ)のつた★カフェ」「クラシックカフェ」など毎月様々な企画▽天王寺区上本町六二・三七、地下鉄谷町九丁目駅⑪出口、☎六七六七・〇〇二一。



→ガットネロを主宰する松浦由美子さん^①と「つた★カフェ」出演のHAMORRI・BE^②

ひとくちPR

(二行＝税込二〇〇〇円)

- **そろばん学習で子どもが変わるー** 右脳活性
見直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検索** (分四 一 一 三 七 三 津 神 社 西 側 **公** 五 七 一 一 六 八 七 七)。
- **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送、お出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント (八幡屋 一 四 一 八、入舟公園前 大阪信金横 十 十 九 時 営 業、日 月 定 休)。
- **介護のことはお任せ** ①介護や老いの相談に乗ります②介護の手続きを代行します③デイサービスは送り迎え付きで入浴・昼食・手芸・ゲーム・テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操・おやつなどを楽します④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院などを手伝います。NPOみなと共同ケアセンター (**公** 六 五 八 三 一 四 八 八 〇、FAX 六 五 八 三 一 一 二 二 三)。
- **あなたのふとんが生まれ変わる** わた 綿も羽毛 **か** け **し** き も 掛 も 敷 も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛敷(ふとん二万円)。理想のまくら

- **新しい学びの世界へ!** チーム学習によって全員ができる。をめぐる画期的な学習スタイル。小一〜高二。月謝は週一回で実質六千円。NPOが運営。問合せはメールで「学び合います」 クール 繁栄商店街1 (info. ubiquitous. adv@gmail.com) へ。
- **何でも書きます、まとめます** 手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案。自分史・夫婦史・社史・団体史などの聞き書き。新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集。 **公** 六 五 七 一 一 四 六 三 六 港 新 聞 ・ 飯 田 編 集 事 務 所。
- **放課後・春夏冬休みは学習保育へ** 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。 **公** 六 五 七 五 〇 三 五 ありんこ。
- **レンタルフリーボックス** 一カ月二〇〇〜一八〇〇円。鍵付きガラスケース・棚上陳列スペース・ハンガー、足元置きカゴなどの月極レンタルも。コスメハウス ナナイロ (南市岡 三 一 二 九 繁 栄 商 店 街 内 **公** 八 五 八 六 一 九 五)。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

- **関西フィル「第六〇回定期演奏会」** (三三 文化案内) 招待券をへア一組に。
- **井天町ORC200生涯学習センター「オーク井天寄席」** (三三 文化案内) 招待券、へア一組に。
- **井天シネマ倶楽部「黄色いリボン」** (三三 文化案内) 招待券をへア一組に。
- **あんがいおまる一座「秋晴れ寺町風景」** (演劇ガイド) 招待券をへア一組に。

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX: 06-6571-4636

Eメール: yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/